

# 講義概要

## (シラバス)

# 2024

臨床心理学研究科

臨床心理学専攻 (修士課程)

## 新潟青陵大学大学院

GURADUATE SCHOOL OF NIIGATA SEIRYO UNIVERSITY



2024 年度入学生

教育課程表

講義概要（1 年次開講科目）



教育課程表（令和6年度[2024]入学生適用）

授業科目	講義番号	授業年次	単位			1年		2年		担当教員
			必修	選択必修	選択	前期	後期	前期	後期	
臨床心理学特論Ⅰ	101	1	2			2			伊藤真理子	
臨床心理学特論Ⅱ	102	1	2				2		本間恵美子	
臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	103	1	2			2			宮澤淳滋	
臨床心理面接特論Ⅱ	104	1	2				2		浅田剛正	
臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	105	1	2			2			本間恵美子・引土達雄	
臨床心理査定演習Ⅱ	106	1	2				2		宮澤淳滋・☆中村協子	
臨床心理基礎実習Ⅰ	107	1	2			2			伊藤真理子・浅田剛正・引土達雄	
臨床心理基礎実習Ⅱ	108	1	2				2		小林智・宮澤淳滋	
臨床心理実習Ⅰ	109	2	1					1	本間恵美子, 他(計11名)※1	
臨床心理実習Ⅱ	110	2	1					1	浅田剛正, 他(計11名)※2	
臨床心理演習Ⅰ	201	1		4			4		浅田剛正, 他(計8名) ※3	
臨床心理演習Ⅱ	202	2		4				4	伊藤真理子, 他(計12名) ※4	
心理実践実習Ⅰ	203	1		4			4		伊藤真理子, 他(計12名)※5	
心理実践実習Ⅱ	204	2		6				6	本間恵美子, 他(計12名)※6	
臨床心理学研究法特論	205	1		2		2			碓井真史・浅田剛正	
心理学研究法演習Ⅰ	206	1		2		2			○新國佳祐	
心理学研究法演習Ⅱ	215	2		2		2			本間恵美子	
臨床心理倫理特論	207	1		2			2		引土達雄	
人格心理学特論	208	2		2				2	浅田剛正	
精神保健医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	209	1		2		2			浅田剛正・○関谷昭吉・☆村松公美子・☆横山知行	
障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	210	1		2				2	引土達雄	
学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)	211	2		2				2	小林大介	
非行・犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	212	2		2				2	☆佐藤亨・小林大介	
産業保健心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	213	1		2			2		碓井真史・小林智・小林大介・★齋藤智・★宮崎隆徳	
家族・地域支援心理学特論(家族・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	214	2		2				2	小林智	
メンタルヘルス特論(心の健康教育に関する理論と実践)	216	1		2		2			○齋藤恵美・☆榎谷晶子	
精神分析学特論	217	1・2		2				2	☆大森智恵	
認知行動療法特論	218	1・2		2				2	小林智・○齋藤恵美	
コミュニティ・アプローチ特論	219	2		2				2	○佐藤修哉	
特定課題研究Ⅰ	301	1	2			2			伊藤, 碓井, 本間, 浅田, 宮澤, 引土, 小林智	
特定課題研究Ⅱ	302	2	2					2	伊藤, 碓井, 本間, 浅田, 宮澤, 引土, 小林智	

2023年度入学者(M2)  
2024年度入学者(M1)

2023年度入学者(M2)  
2024年度入学者(M1)  
2024年度入学者(M2)  
2025年度入学者(M1)  
2024年度入学者(M2)  
2025年度入学者(M1)

○福祉心理学部専任教員      ★短大教員  
●看護学部教員                      ☆学外非常勤講師

- ※1 臨床心理実習Ⅰ担当教員:伊藤, 本間, 浅田, 小林智, 小林大, 宮澤, 引土, ○真壁, ○佐藤修, ☆中村, ☆佐藤亨
- ※2 臨床心理実習Ⅱ担当教員:浅田, 本間, 伊藤, 小林智, 小林大, 宮澤, 引土, ○真壁, ○佐藤修, ☆中村, ☆佐藤亨
- ※3 臨床心理演習Ⅰ担当教員:浅田・本間・伊藤・宮澤・引土・小林智・小林大・○真壁
- ※4 臨床心理演習Ⅱ担当教員:伊藤・本間・浅田・小林智・小林大・宮澤・引土・○真壁・○齋藤・○佐藤修・☆中村・☆佐藤亨
- ※5 心理実践実習Ⅰ担当教員:伊藤・本間・浅田・小林智・小林大・宮澤・引土・○真壁・○齋藤・○佐藤修・☆中村・☆佐藤亨
- ※6 心理実践実習Ⅱ担当教員:本間・伊藤・浅田・小林智・小林大・宮澤・引土・○真壁・○齋藤・○佐藤修・☆中村・☆佐藤亨

研究科・学年		臨床心理学研究科 1年					
講義番号	101	教科名 臨床心理学特論 I				授業形態	講義
単位数	2	必・選	必修	開講時期	前期	担当者	伊藤 真理子
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照					
講義の概要 (教育目標を含む)		臨床心理学とは心理臨床実践に基づいた心理学であり、その実践分野は多岐に渡り、技法もその基盤となる治療観も様々である。多種多様な理論や技法が共有する心理臨床の基礎、基盤とは何かについて論ずる。具体的には臨床心理学の歴史やパラダイム、その対象や用いる手段について概説し、ディスカッションを交え理解を深める。後半は、遊戯療法に焦点を当て、遊びをどう捉えるのか、またどのようなセッティングが必要とされるのかなど、実践的なトピックスについて理解を深める。					
学生の学習 (行動)目標		1. 臨床心理学の成り立ちとその依って立つパラダイムについて説明できる。 2. 遊戯療法の基礎的な理論を理解し、説明することができる。					
授業計画(シラバス)							
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	臨床心理学の成り立ちとパラダイム				歴史 シャーマニズム 主観性 一回性 関係性	予習:レジюме作成 復習:小レポート作成	4
2回	心理療法とは何か				心理療法家のイニシエーション	予習:レジюме作成 復習:小レポート作成	4
3回	心理臨床の対象①				正常と異常 治療目標 病態水準 障害	予習:レジюме作成 復習:小レポート作成	4
4回	心理臨床の対象②				心理療法と教育 心理療法と宗教	予習:レジюме作成 復習:小レポート作成	4
5回	心理臨床における表現				言語 非言語 言葉 イメージ 身体	予習:レジюме作成 復習:小レポート作成	4
6回	耳を傾けること				傾聴 共感 転移	予習:レジюме作成 復習:小レポート作成	4
7回	事例検討				事例検討	予習:レジюме作成 復習:小レポート作成	4
8回	遊戯療法とは				遊び	予習:レジюме作成 復習:小レポート作成	4
9回	こどもの発達				遊びと発達	予習:レジюме作成 復習:小レポート作成	4
10回	遊戯療法の構造				ブレイルーム 時間 守秘	予習:レジюме作成 復習:小レポート作成	4
11回	遊戯療法における初回面接とアセスメント				初回面接 生育歴 ラポール	予習:レジюме作成 復習:小レポート作成	4
12回	親子平行面接				平行面接 家族 母親	予習:レジюме作成 復習:小レポート作成	4
13回	遊びの理解				関係性 イメージ 非言語表現 身体	予習:レジюме作成 復習:小レポート作成	4
14回	遊戯療法の諸学派				子ども中心療法 クライン ユング	予習:レジюме作成 復習:小レポート作成	4
15回	事例検討				遊戯療法 事例検討	予習:レジюме作成 復習:小レポート作成	4
16回	定期試験						
計							60
成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	作成された小レポートの内容を中心に次の講義時にフィードバックを行う。			
	試験						
	レポート	40%					
	学習態度	20%	備考	毎回の講義後に講義内容に関する小レポートを作成する。講義中の発表・ディスカッションへの参加姿勢を学習態度として評価する。毎回各自が通読課題に関するレジюме作成を行う。その内容をその他として評価する。			
	その他	40%					
計	100%						
テキスト	講義中に資料配布、または、下記の参考書を参照する。						
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	「臨床心理学特論(放送大学大学院教材)」小川俊樹 倉光修 放送大学教育振興会 2017					
	2	心理療法序説(岩波現代文庫〈心理療法〉コレクション IV)河合隼雄 河合俊雄編 岩波書店 2009					
	3	心理療法入門(岩波現代文庫〈心理療法〉コレクション VI)河合隼雄 河合俊雄編 岩波書店 2010					
	4	カウンセリングの実際(岩波現代文庫〈心理療法〉コレクション II)河合隼雄 河合俊雄編 岩波書店 2009					
	5	心理臨床の理論 河合俊雄 岩波書店 2000					
	6	子どもの心理臨床入門 永井徹 金子書房 2005					
	7	母親の心理療法 橋本やよい 日本評論社 2000					
	8	遊戯療法 V.M.アクスライン 岩崎学術出版社 1972					
	9	プレイセラピー 関係性の営み G.L.ランドレス 日本評論社 2007					
	10	遊戯療法 様々な領域の事例から学ぶ 伊藤良子編著 ミネルヴァ書房 2017					
履修上の注意事項や学習上の助言など							

研究科・学年		臨床心理学研究科 1年							
講義番号	102	教科名 臨床心理学特論Ⅱ					授業形態	講義	
単位数	2	必・選	必修	開講時期	後期	担当者	本間 恵美子		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		1～2回:心理臨床に関連する意識のさまざまな状態について検討する。 3～8回:ワーキングメモリと実行機能について、それぞれ心理臨床につながる基本的な考え方を検討する。 8～12回:高齢者の認知機能及び心理社会的特徴を把握し、支援について考えていく。 13～15回:ひきこもり者及びその家族についての特徴を把握し、支援について考えていく。							
学生の学習 (行動)目標		1. ワーキングメモリを中心とした認知機能の基本的な仕組みと生涯発達の特徴を理解し、記憶と学習上の問題について説明できる。 2. ひきこもりと高齢者の心理的特徴とそれを取り巻く人間関係および支援について説明できる。							
授業計画(シラバス)									
回	内容			キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量			準備学習に要する時間	
1回	意識の状態			睡眠、睡眠障害	復習:配布プリントをもとに基本的な用語をまとめる。			4	
2回	催眠			催眠	復習:配布プリントをもとに基本的な用語をまとめる。			4	
3回	ワーキングメモリのしくみ			ワーキングメモリ	復習:配布プリントをもとに基本的な用語をまとめる。			4	
4回	ワーキングメモリの発達			ワーキングメモリ、発達	復習:配布プリントをもとにワーキングメモリの発達における傾向をまとめる。			4	
5回	ワーキングメモリと学習支援			ワーキングメモリの障害、学習支援	復習:配布プリントをもとに基本的な用語と考え方をまとめる。			4	
6回	実行機能のしくみと問題			実行機能	復習:配布プリントをもとに基本的な用語と考え方をまとめる。			4	
7回	ワーキングメモリと実行機能から見た認知症			認知症、ワーキングメモリ、実行機能	復習:配布プリントをもとに基本的な用語と考え方をまとめる。			4	
8回	障害受容			障害受容、家族、社会資源	復習:配布プリントをもとに基本的な用語と考え方をまとめる。			4	
9回	高齢者の認知機能のエイジングと支援1:身体、感覚、認知機能から考える			感覚器の加齢、脳の生物学的加齢と補償	復習:配布プリントをもとに高齢者の感覚、認知等の特徴と支援に関連する要因をまとめる。			4	
10回	高齢者の認知機能のエイジングと支援2:記憶から考える			高齢者の記憶	復習:配布プリントをもとに高齢者の記憶の特徴と支援に関連する要因をまとめる。			4	
11回	高齢者の心理社会的特徴1:70代まで			アイデンティティの変化、活動理論、離脱理論	復習:配布プリントをもとに前期高齢者の心理社会的特徴と支援に関連する要因をまとめる。			4	
12回	高齢者の心理社会的特徴2:80代以上			フレイルと精神的適応、社会情動的選択理論、老年的超越	復習:配布プリントをもとに後期高齢者の心理社会的特徴と支援に関連する要因をまとめる。			4	
13回	ひきこもり1:本人への理解と対応			ひきこもり	復習:配布プリントをもとにひきこもり者の心理的特徴と支援に関連する要因をまとめる。			4	
14回	ひきこもり2:親への理解と親の会			親子関係、親の会	復習:配布プリントをもとにひきこもりの子どもをもつ親の心理社会的特徴と支援に関連する要因をまとめる。			4	
15回	ひきこもり3:プロセスの検討			ひきこもりのプロセス	復習:配布プリントをもとにひきこもり者とその親がたどりやすい心理社会的プロセスと支援に関連する要因をまとめる。			4	
16回									
計								60	
成績評価	小テスト	70%	学習成果のフィードバック	・小テストは2回行う予定であり、結果をフィードバックする。  ・学習態度については、ディスカッションへの参加、課題への取り組みなどをもとに総合的に評価する。					
	試験								
	レポート								
	学習態度	30%	備考						
	その他								
計		100%							
テキスト	なし(プリント資料を配布する)								
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	「ワーキングメモリの探求」A.バドリー著 北大路書房 2019年							
	2	「認知症ケアのための心理アセスメントと心理支援」小海宏之・若松直樹・川西智也編著 金剛出版 2022年							
	3	「わたしを律するわたし」森口佑介著 京都大学学術出版会 2012年							
	4	「最新老年心理学」松田修編著 株式会社ワールドプランニング 2018年							
	5	「ワーキングメモリと特別な支援」湯沢美紀、他編著 北大路書房 2013年							
	6	「超高齢社会を生きる」日本心理学会監修 誠信書房 2016年							
	7	「ひきこもりの心理支援」日本臨床心理士会監修 金剛出版 2017年							
	8	「催眠の科学」成瀬悟策著 講談社ブルーバックス 1997年							
	9	「地域におけるひきこもり支援ガイドブック」境泉洋著 金剛出版 2017年							
	10	「睡眠と健康」宮崎総一郎・佐藤尚武著 放送大学教育振興会 2013年							
	11	「成人発達心理学」星薫著 放送大学教育振興会 2017年							
履修上の注意事項や 学習上の助言など									

研究科・学年		臨床心理学研究科 1年					
講義番号	103	教科名 臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)					授業形態 講義
単位数	2	必・選	必修	開講時期	前期	担当者	宮澤 淳滋
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	冊子の最後にある対照表を参照						
講義の概要 (教育目標を含む)	要支援者に対する心理面接の理論とその実際について学ぶ。精神動論に基づく要支援者の理解と支援のあり方、行動論・認知論に基づく認知行動療法の理論と支援のあり方、さらにその他の心理療法の理論と支援のあり方について学ぶ。心理に関する要支援者に対して適切な見立て(アセスメント)をし、その後の支援方法の選択や調整が出来るために実践的な考え方を修得する。心理療法において生じる現象について、実践的な学習を積みこむことで理解を深める。また、心理療法の参考になるひとつの映画を四回にわけて取り上げ考察する。授業形式は講義およびディスカッションを通して行う。						
学生の学習 (行動)目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理療法の基礎となるそれぞれの理論について説明できる</li> <li>心理的支援の適切な選択や具体的な進め方の基礎となる考え方を説明できる</li> <li>心理的支援におけるアセスメントの実践的な考え方を習得し、説明できる</li> <li>心理療法では何を目的として、何を行うのか、自分の考えを交えて説明できる</li> </ul>						
授業計画(シラバス)							
回	内 容		キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量			準備学習に要する時間
1回	イントロダクション:臨床心理面接の概説		心理療法の目的、主体、他者	予習:参考文献を参照し予習しておく 復習:配布資料を読み理解を深める			2
2回	インテーク面接		見立て、病態水準、リファーマ	予習:参考文献を参照し予習しておく 復習:配布資料を読み理解を深める			2
3回	アセスメント面接		情報収集、医学モデルと心理学モデル	予習:参考文献を参照し予習しておく 復習:配布資料を読み理解を深める			2
4回	器としての心理療法		面接構造、連携、集団守秘義務	予習:参考文献を参照し予習しておく 復習:配布資料を読み理解を深める			2
5回	心理療法で行われること		関与しながらの観察、創造としての解釈、心理療法の第三のもの	予習:参考文献を参照し予習しておく 復習:配布資料を読み理解を深める			2
6回	認知行動療法		心理教育、コラム法、不安階層表、エクスポージャー	予習:参考文献を参照し予習しておく 復習:配布資料を読み理解を深める			4
7回	精神分析		防衛機制、転移逆転移、自我と無意識	予習:事前に配布する資料を参照し、ディスカッションの準備をしておく 復習:ディスカッションを振り返り理解を深める			8
8回	その他の心理療法:人間性心理学		来談者中心療法、心理療法の過程、自己実現、人生の意味	予習:参考文献を参照し、ディスカッションの準備をしておく 復習:ディスカッションを振り返り理解を深める			10
9回	アートセラピー		イメージ、自画像、アートに現れるところ	予習:事前に配布する資料を参照し、ディスカッションの準備をしておく 復習:ディスカッションを振り返り理解を深める			8
10回	夢分析		拡充法、補償、夢の人物像	予習:参考文献を参照し予習しておく 復習:配布資料を読み理解を深める			4
11回	映画を題材に心理療法を考える1		異性像、面接構造	予習:事前に指定された映画を鑑賞し、ディスカッションの準備をしておく 復習:ディスカッションを振り返り理解を深める			6
12回	映画を題材に心理療法を考える2		無意識の活性化、死者との対話	予習:前回の授業内容を振り返っておく 復習:ディスカッションを振り返り理解を深める			2
13回	映画を題材に心理療法を考える3		無意識の危険性、悪	予習:前回の授業内容を振り返っておく 復習:ディスカッションを振り返り理解を深める			2
14回	映画を題材に心理療法を考える4		瞬間的な今ここの現れ、超越性	予習:前回の授業内容を振り返っておく 復習:ディスカッションを振り返り理解を深める			2
15回	事例検討		心理支援への応用	予習:事前に配布する資料を参照し、ディスカッションの準備をしておく 復習:ディスカッションを振り返り理解を深める			4
16回							
計							60
成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回のレポートにフィードバックする。</li> <li>グループディスカッションを行って発表する。その際コメントをする。</li> <li>ディスカッションにおいて、積極的な参加が求められる。</li> <li>準備に時間を要する回があるので、計画的に取り組むこと。</li> </ul>			
	試験						
	レポート	70%					
	学習態度	30%					
	その他		備考				
計		100%					
テキスト	資料プリントを配布						
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	「臨床心理面接特論I」大山泰宏・小林真理子編 放送大学教育振興会(2019)					
	2	「夜と霧」ヴィクトール・E・フランクル著 みすず書房(2002)					
	3	「不安障害の認知行動療法1」パニック障害と広場恐怖」ギャビン アンドリュース他著 星和書店(2003)					
	4	「フロイト全集 2」芝伸太郎編 岩波書店(2008)					
	5	「女のいない男たち」村上春樹著 文藝春秋(2014)					
	6	「ワーニヤ伯父さん」チェーホフ著 光文社(2009)					
	7	「精神科における予診・初診・初期治療」笠原嘉著 星和書店(2007)					
	8						
	9						
	10						
履修上の注意事項や学習上の助言など	講義内容を知的に理解するだけでなく、自分の経験やこころの動きに照らし合わせながら理解した上で、自分の言葉でディスカッションにのぞんでほしい。						

研究科・学年		臨床心理学研究科 1年						授業形態		講義	
講義番号	104	教科名 臨床心理面接特論Ⅱ									
単位数	2	必・選	必修	開講時期	後期	担当者	浅田 剛正				
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照									
講義の概要(教育目標を含む)		臨床心理面接とは、多様な学派によって理論づけられた心理療法、心理カウンセリングを含めながらも、一般的な「面接」とは異なるパラダイムに基づく専門的方法論のことを指す。本講義では、臨床心理面接において汎用性をもつ諸概念を実践的な文脈において位置づけおし、クライアントとの生身の人間関係に生じる現象とそこでセラピストが留意すべき事項に関してディスカッションを交わすことによって理解を深めることを目指す。また、代表的な心理療法・カウンセリングの理論体系をその理論化された背景を踏まえて読み解くことで、各オリエンテーションの異同の意味について理解してゆく。									
学生の学習(行動)目標		大学院生は与えられたテーマに沿って、指定された文献を中心として個々に複数の文献に当たり、学んだことをレジュメにまとめる。各自が出席者全員に対してプレゼンテーションを行い、それを基に全員でディスカッションをして理解を深めることができる。									
授業計画(シラバス)											
回	内容			キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量				準備学習に要する時間		
1回	臨床心理面接とは?			臨床の知、カウンセリング、心理療法	各自、事前に授業テーマに関するキーワードについて、テキストおよび参考文献にあたって調べておくこと。各回の後には資料を復習し、コメントを提出すること。				4		
2回	面接における基本的事項① 会うこと、聴くこと、見立てること			クライアント(来談者)、非日常性、見立て	一回目の準備学習に加え、2回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。				4		
3回	面接における基本的事項② 面接の枠組みと面接構造論(外的枠)			守秘、料金、面接空間、枠、並行面接	一回目の準備学習に加え、3回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。				4		
4回	面接における基本的事項③ 面接関係と面接契約(内的枠)			面接契約、他者性、転移・逆転移、共感的理解	一回目の準備学習に加え、4回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。				4		
5回	面接過程における諸課題① 面接での出会いとアセスメント			主訴、生履歴・現症歴・家族歴、アセスメント	一回目の準備学習に加え、5回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。				4		
6回	面接過程における諸課題② 面接の展開と諸課題			傾聴、抵抗、転移性治療、物語、遅刻・キャンセル、ワーキングスルー	一回目の準備学習に加え、6回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。				4		
7回	面接過程における諸課題③ 技法の導入と危機対応			中間領域、行動化・身体化、イニシエーション	一回目の準備学習に加え、7回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。				4		
8回	面接過程における諸課題④ 面接の終わり			終結、中断、引き継ぎ、心的変容、症状の意味	一回目の準備学習に加え、8回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。				4		
9回	面接技法① 精神分析学の知見を活かす			反復強迫、治療同盟、自由連想、転移抵抗、解釈、洞察	一回目の準備学習に加え、9回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。				4		
10回	面接技法② 人間性心理学の知見を活かす			非指示療法、共感的理解、自己実現、自己概念、経験、フォーカシング	一回目の準備学習に加え、10回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。				4		
11回	面接技法③ 分析心理学の知見を活かす			補償機能、イメージ、元型、夢分析、コンステレーション、錬金術	一回目の準備学習に加え、11回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。				4		
12回	面接技法④ 行動主義的学習理論を活かす			学習理論、行動療法、認知行動療法、系統的脱感作、ACT、マインドフルネス	一回目の準備学習に加え、12回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。				4		
13回	面接の実際と訓練① 面接記録の意味とその活用			面接記録、報告書、所見、守秘と連携	一回目の準備学習に加え、13回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。				4		
14回	面接の実際と訓練② スーパーヴィジョンの意義			スーパーヴィジョン、教育分析	一回目の準備学習に加え、14回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。				4		
15回	面接の実際と訓練③ 事例検討/報告から事例研究へ			事例検討、事例研究、研究倫理	一回目の準備学習に加え、15回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。				4		
16回	予備日										
計									60		
成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	出席者の発表や発言、事後コメントについて次回授業内に教員からコメントをつけてフィードバックする。  レポート:各回の授業後に扱ったテーマに関する小レポートを課す。 学習態度:ディスカッションへの寄与について評価する。 その他:個々の担当回におけるプレゼンテーション(口頭発表)およびそのためのレジュメ(A4 2枚程度)を評価する。							
	試験										
	レポート	40%									
	学習態度	20%									
	その他	40%									
計	100%	備考									
テキスト	購入するテキストは指定しない。ただし、共通して大学院生室に所蔵のある下記『心理臨床大事典(氏原寛 他編 培風館)』を適宜参照すること。										
テキスト以外の参考書(番号は、推薦順)(図書館備付)	1	氏原寛 他編(2004) 心理臨床大事典 培風館									
	2	河合隼雄(2013) 新版 心理療法論考(河合俊雄編) 創元社									
	3	伊藤良子(2011) 心理療法論 京都大学学術出版会									
	4	土井健郎(1977) 新訂 方法としての面接 医学書院									
	5	神田橋條治(1990) 精神療法面接のコツ 岩崎学術出版社									
	6										
	7										
	8										
	9										
	10										
履修上の注意事項や学習上の助言など	臨床心理士はそれぞれ独自のオリエンテーション、理論的基盤、よって立つ立場を定める必要があるため、各々自身の個性やそれに合った方法論、用いる言葉を探求することも目標とされたい。また、各自のそれまでの実習、事例担当など、自身の実践体験に照らしながら、面接理論や諸概念の本質的な理解に生かしてもらいたい。										

研究科・学年		臨床心理学研究科 1年						
講義番号	105	教科名	臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)				授業形態	演習
単位数	2	必・選	必修	開講時期	前期	担当者	本間 恵美子・引土 達雄	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	冊子の最後にある対照表を参照							
講義の概要(教育目標を含む)	心理査定は、臨床心理学の主要分野の一つである。心理査定によって、クライアントの状態像を想定し、かつ、その状態像を治療集団で共有することが可能になる。クライアントの状態像を想定・共有する技術は心理専門職にとって必須であり、この技術が無ければ、現場に貢献し得る心理専門職になることはほぼ不可能である。本授業では心理査定の技術を質問紙、認知症検査及び知能検査を通して学び、受講者がクライアントの状態像を想定・共有する技術を身につけることを目指している。主な質問紙法、認知症検査及び知能検査を使用して、クライアントの状態像が想定・共有できるようになることが目標である。							
学生の学習(行動)目標	① 心理アセスメントの理論や意義について説明できる。 ② 心理アセスメントの活用の仕方について理解し、事例に適切である。 ③ 質問紙法を自力で実施し得る。 ④ 質問紙法を用いて、自分の状態像を想定・共有し得る。 ⑤ 知能検査、認知症検査を自力で実施し得る。 ⑥ 知能検査を用いて、自分の状態像を想定・共有し得る。							
授業計画(シラバス)								
回	内容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1-2回	オリエンテーション、MPI(本間)				MPI	＜復習＞レジュメやMPIについての文献を参考に、自分の検査結果についてのレポートを作成する。		2
3-4回	TEG&YG性格検査(本間)				TEG, YG	＜復習＞レジュメやTEG, YGについての文献を参考に、自分の検査結果についてのレポートを作成する。		2
5-6回	MMPI(本間)				MMPI	＜復習＞レジュメやMMPIについての文献を参考に、自分の検査結果についてのレポートを作成する。		2
7-8回	メンタルヘルス関連検査(本間)				BDI, CES-D, POMS, STAI	＜復習＞レジュメやメンタルヘルス関連検査についての文献を参考に、自分の検査結果についてのレポートを作成する。		2
9-10回	発達障害関連検査(本間)				AQ, Conners, CAARS	＜復習＞レジュメや発達障害関連検査についての文献を参考に、自分の検査結果についてのレポートを作成する。		2
11-12回	認知症スクリーニング検査1(本間)				HDS, MMSE, COGNISTAT	＜復習＞レジュメや認知症スクリーニング検査についての文献を参考に、自分の検査結果についてのレポートを作成する。		2
13-14回	認知症スクリーニング検査2(本間)				記憶力検査, BGT, FAB	＜復習＞レジュメや認知症スクリーニング検査についての文献を参考に、自分の検査結果についてのレポートを作成する。		2
15-16回	知能検査概論(引土)				WAIS	＜予習＞「日本版WAIS-III知能検査法 / David Wechsler著:日本版WISC-IV刊行委員会訳編 実施・採点マニュアル」, 「日本版WISC-IV知能検査法 / David Wechsler著:日本版WISC-IV刊行委員会訳編 理論・解釈マニュアル」, 実施・採点マニュアル」を熟読し、理解しておく。		2
17-18回	ウェクスラー法1(引土)				WAIS	＜予習＞「日本版WAIS-III知能検査法 / David Wechsler著:日本版WAIS-III刊行委員会訳編 実施・採点マニュアル」の実施項目」を用いて検査を実施し、WAISの検査数値を出す。		2
19-20回	ウェクスラー法2(引土)				WISC	＜予習＞「日本版WISC-IV知能検査法 / David Wechsler著:日本版WISC-IV刊行委員会訳編 理論・解釈マニュアル」, 実施・採点マニュアル」を熟読し、理解しておく。		2
21-22回	ウェクスラー法3(引土)				WISC	＜予習＞「日本版WISC-IV知能検査法 / David Wechsler著:日本版WISC-IV刊行委員会訳編 理論・解釈マニュアル」, 実施・採点マニュアル」を用いて検査を実施し、WISCの検査数値を出す。		2
23-24回	ビネー法(引土)				田中ビネー	＜予習＞「田中ビネー知能検査V実施マニュアル / 一般財団法人 田中教育研究所編」を用いて検査を実施し、田中ビネーの検査数値を出す。		2
25-26回	認知・学力検査(引土)				K-ABC	＜復習＞レジュメやK-ABC IIについてのマニュアルを参考に、実施上の留意点や整理の仕方について自分なりにまとめる。		2
27-28回	発達検査(引土)				K-式発達検査	＜復習＞レジュメや新版K式発達検査についてのマニュアルを参考に、実施上の留意点や整理のしかたについて自分なりにまとめる。		2
29-30回	発達検査・まとめ(引土)				遠城寺式乳幼児分析的発達検査、津守式乳幼児発達検査、エジソバ産後うつ病質問票	＜復習＞心理アセスメントの活用について、配布されたレジュメに基づいて復習する。		2
31回								
計								30
成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック		・提出されたレポートについて個々にフィードバックする。(本間・引土) ・実施法の理解を前提に授業を進め、誤解がある場合は適宜フィードバックする(本間・引土)			
	試験							
	レポート	90%						
	学習態度	10%						
	その他							
備考		※各質問紙法、知能検査法毎に理解を確かめるレポートが課される。その内容を評価の対象とする。 ※学習態度は、討議への参加態度、授業中の課題への取り組み方などを総合的に判断する。 ※知能検査の授業は、後半になるに連れて準備学習の時間が多くなるため、予め準備学習の時間を確保しておくこと。						
テキスト	特になし。各テストのマニュアル及び配布するプリントを使用する。							
テキスト以外の参考書(番号は、推薦順)(図書館備付)	1	心理アセスメントハンドブック第2版 監修上里一郎 西村書店 2001						
	2	発達相談と援助:新版K式発達検査2001を用いた心理臨床 川畑隆、他著 ミネルヴァ書房 2005						
	3	日本版K-ABC IIによる解釈の進め方と実践事例 小野純平、他編 丸善 2017						
	4	日本版WISC-IV知能検査法 / David Wechsler著:日本版WISC-IV刊行委員会訳編 日本文化科学社 2010						
	5	WISC-IVによる心理アセスメント D.P.フランナガン, A.S.カウフマン著 上野和彦監訳 日本文化社 2014						
	6	WISC-IVの臨床的利用と解釈 A.プリフィテラ, D.H.サクロフスキー, L.G.ワイス編 上野一彦監訳 日本文化科学社 2012						
	7	神経心理検査ベーシック改訂第2版 武田克彦、山下光編著 中外医学社 2024						
	8	日本版WAIS-IIIの解釈事例と臨床研究 藤田和弘 [ほか] 編 日本文化科学社 2011						
	9	よくわかるMMPIハンドブック基礎編 日本MMPI研究会監修 野呂浩史、他編著 金剛出版 2018						
	10	事例による知能検査利用法:子ども理解のための田中ビネー知能検査 / 中村淳子; 杉原一昭共著						
履修上の注意事項や学習上の助言など								

研究科・学年		臨床心理学研究科 1年					授業形態		演習
講義番号	106	教科名 臨床心理査定演習Ⅱ							
単位数	2	必・選	必修	開講時期	後期	担当者	宮澤 淳滋・☆中村 協子		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		臨床心理士・公認心理師にとって、心理検査を用いる心理査定は重要な技法の一つである。心理査定法の内、熟練を要する投影法を学ぶ。その中でも特に臨床現場において使用頻度が高く有用とされるロールシャッハ法を中心に取り上げる。その施行法、分類法、解釈法を習得し、人格の臨牀的な理解を深める。事例の査定報告書を作成し、まとめ方を学ぶ。さらに他の心理査定との組み合わせについても学習し、考察を深める。学部学生に被検者として協力を依頼し、自分が検査者になって実施したロールシャッハ法資料をもとに実践的な学習を実施する。							
学生の学習 (行動)目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな投影法検査の特徴を把握し、施行することができる。</li> <li>ロールシャッハ法を施行し、被検者の人格特徴を把握し、それに基づいて所見を作成することができる。</li> </ul>							
授業計画(シラバス)									
回	内 容		キーワード		準備学習(予習・復習)の内容と分量			準備学習に要する時間	
1回	イントロダクション・映法概論		投射、パーソナリティ、自由度		復習:配布資料を精読し内容を振り返る			1	
2回	SCT		刺激文、統制		復習:自分の検査結果をもとに小レポートを作成する			1	
3回	P-Fスタディ		欲求不満、アグレッションと方向		復習:自分の検査結果をもとに小レポートを作成する			1	
4回	ロールシャッハの準備		スコアリングと解釈、片口法とエクスターナ法		予習:テキスト3章~17章を読み、実施法の概要をつかむ 復習:授業内容をもとに改めてテキストを精読し、検査の準備をする			1	
5回	TAT1		ナラティブ、欲求-圧力		復習:自分の検査結果をもとに小レポートを作成する			1	
6回	TAT2		時間展望、自己イメージ		復習:自分の検査結果をもとに小レポートを作成する			1	
7回	事例検討1・スコア整理・解釈を討議		ロールシャッハの事例検討		予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る			1	
8回	事例検討2・スコア整理・解釈を討議		ロールシャッハの事例検討		予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る			1	
9回	事例検討3・スコア整理・解釈を討議		ロールシャッハの事例検討		予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る			1	
10回	事例検討4・スコア整理・解釈を討議		ロールシャッハの事例検討		予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る			1	
11回	事例検討5・スコア整理・解釈を討議		ロールシャッハの事例検討		予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る			1	
12回	事例検討6・スコア整理・解釈を討議		ロールシャッハの事例検討		予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る			1	
13回	事例検討7・スコア整理・解釈を討議		ロールシャッハの事例検討		予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る			1	
14回	事例検討8・スコア整理・解釈を討議		ロールシャッハの事例検討		予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る			1	
15回	事例検討9・スコア整理・解釈を討議		ロールシャッハの事例検討		予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る			1	
16回	事例検討10・スコア整理・解釈を討議		ロールシャッハの事例検討		予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る			1	
17回	事例検討11・スコア整理・解釈を討議		ロールシャッハの事例検討		予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る			1	
18回	事例検討12・スコア整理・解釈を討議		ロールシャッハの事例検討		予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る			1	
19回	事例検討13・スコア整理・解釈を討議		ロールシャッハの事例検討		予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る			1	
20回	事例検討14・スコア整理・解釈を討議		ロールシャッハの事例検討		予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る			1	
21回	事例検討15・スコア整理・解釈を討議		ロールシャッハの事例検討		予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る			1	
22回	事例検討16・スコア整理・解釈を討議		ロールシャッハの事例検討		予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る			1	
23回	事例検討17・スコア整理・解釈を討議		ロールシャッハの事例検討		予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る			1	
24回	事例検討18・スコア整理・解釈を討議		ロールシャッハの事例検討		予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る			1	
25回	事例検討19・スコア整理・解釈を討議		ロールシャッハの事例検討		予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る			1	
26回	事例検討20・スコア整理・解釈を討議		ロールシャッハの事例検討		予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る			1	
27回	事例検討21・スコア整理・解釈を討議		ロールシャッハの事例検討		予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る			1	
28回	事例検討22・スコア整理・解釈を討議		ロールシャッハの事例検討		予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る			1	
29回	テスト・バッテリー		構造化の程度、退行の程度		復習:配布資料を精読し内容を振り返る			1	
30回	報告書の書き方		検査目的、表現の工夫		復習:配布資料を精読し内容を振り返る			1	
31回									
計								30	

成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	事例検討の際にコメントをする。また提出されたレポートに対してフィードバックを行う。
	試験			
	レポート	60%		
	学習態度	40%	備考	自験例のスコア整理や解釈についてグループディスカッションを行うので、積極的に関心を持って授業に取り組むことが望まれる。 担当ケースの発表には準備に時間がかかるため、計画的に取り組むことが望まれる。 SCT、P-Fスタディ、TATのレポートの他、自分がとったロールシャッハについて、レポート提出が求められる。
	その他			
	計	100%		
テキスト	「新・心理診断法」 片口 安史著 金子書房(1987) ¥9500			
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	「力動的心理査定」 馬場禮子編著 岩崎学術出版社(2017)		
	2	「ロールシャッハ・テスト: 包括システムの基礎と解釈の原理」 ジョン・E. エクスナー著 金剛出版(2009)		
	3	「臨床事例から学ぶTAT解釈の実際」 安香 宏・藤田 宗和編著 新曜社(1997)		
	4	「P-Fスタディの理論と実際」 秦一士著 北大路書房(2007)		
	5	「精研式文章完成法テスト解説」 佐野勝男・楨田仁著 金子書房(1991)		
	6	「臨床ロールシャッハ解釈の実際」 上芝功博 八峰出版(2007)		
	7	「ロールシャッハ・テスト その実施・解釈・臨床例」 小野和雄 川島書店(1991)		
	8	「改訂 ロールシャッハ法と精神分析」 馬場禮子 岩崎学術出版社(1999)		
	9	「臨床心理査定技法2」 菅藤章編 誠信書房(2004)		
	10	「投影査定心理学特論」 小川俊樹・伊藤宗親編 放送大学教育振興会(2015)		
履修上の注意事項や 学習上の助言など	毎回の出席を厳守する。学部学生の検査データを扱うため、資料の保管や守秘には厳重に注意する。			

研究科・学年		臨床心理学研究科 1年				授業形態		実験・実習	
講義番号	107	教科名				臨床心理基礎実習 I			
単位数	2	必・選	必	必修	開講時期	前期	担当者	伊藤 真理子・浅田 剛正・引土 達雄	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	冊子の最後にある対照表を参照								
講義の概要(教育目標を含む)	遊び(プレイ)を介して子どもに関わる実習と言語面接のロールプレイを通じ、臨床心理学的援助におけるセラピストの基本姿勢について体験的に学ぶ。具体的には、幼稚園児と1対1で関わるプレイセラピー実習とロールプレイによるクライエントセラピスト体験実習を行い、実習内容についてのディスカッションの中でクライエントの見立て、治療関係づくりや関係性を見立て、心理療法の基本原則などについて学んでいく。								
学生の学習(行動)目標	①心理療法の基本原則を理解すること ②自らの援助的対人関係の持ち方を省察すること ③関与観察の中でクライエントの理解を深めること ④自らの臨床体験を言語を用いて表現できること								
授業計画(シラバス)									
回	内容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量			準備学習に要する時間
1回	オリエンテーション 幼稚園見学 遊戯療法の理論				プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する			0
2回	オリエンテーション 幼稚園見学 遊戯療法の理論				プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する			0
3回	プレイセラピー実習とディスカッション				プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
4回	プレイセラピー実習とディスカッション				プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
5回	プレイセラピー実習とディスカッション				プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
6回	プレイセラピー実習とディスカッション				プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
7回	プレイセラピー実習とディスカッション				プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
8回	プレイセラピー実習とディスカッション				プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
9回	プレイセラピー実習とディスカッション				プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
10回	プレイセラピー実習とディスカッション				プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
11回	プレイセラピー実習とディスカッション				プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
12回	プレイセラピー実習とディスカッション				プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
13回	プレイセラピー実習とディスカッション				プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
14回	プレイセラピー実習とディスカッション				プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
15回	プレイセラピー実習とディスカッション				プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
16回	プレイセラピー実習とディスカッション				プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
17回	プレイセラピー実習とディスカッション				プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
18回	プレイセラピー実習とディスカッション				プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
19回	プレイセラピー実習とディスカッション				プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
20回	プレイセラピー実習とディスカッション				プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
21回	プレイセラピー実習とディスカッション				プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
22回	プレイセラピー実習とディスカッション				プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
23回	実習報告会				プレイセラピー	報告会のため各自レジュメの作成・報告会後幼稚園に対する報告書の作成			4
24回	実習報告会				プレイセラピー	報告会のため各自レジュメの作成・報告会後幼稚園に対する報告書の作成			4
25回	ロールプレイオリエンテーション ロールプレイ実習とディスカッション				言語面接 ロールプレイ クライエント体験	〈予習〉資料の作成〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
26回	ロールプレイオリエンテーション ロールプレイ実習とディスカッション				言語面接 ロールプレイ クライエント体験	〈予習〉資料の作成〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
27回	ロールプレイ実習とディスカッション				言語面接 ロールプレイ クライエント体験	〈予習〉資料の作成〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
28回	ロールプレイ実習とディスカッション				言語面接 ロールプレイ クライエント体験	〈予習〉資料の作成〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
29回	ロールプレイ実習とディスカッション				言語面接 ロールプレイ クライエント体験	〈予習〉資料の作成〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
30回	ロールプレイ実習とディスカッション				言語面接 ロールプレイ クライエント体験	〈予習〉資料の作成〈復習〉実習後にレポートを作成する			2
計									60

成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	実習中や実習後のディスカッションの中でフィードバックを行う。
	試験			
	レポート	60%		
	学習態度	40%	備考	学習態度は、実技の到達度、ディスカッションへの参加、実習報告会での発表等の学習態度を総合的に評価する。
	その他			
	計	100%		
テキスト	なし			
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	V.M.アクスライン 遊戯療法 岩崎学術出版社		
	2	G.L.ランドレス プレイセラピー 関係性の営み 日本評論社		
	3	岩田純一 〈わたし〉の発達 乳幼児が語る〈わたし〉の世界 ミネルヴァ書房		
	4	D.W.ウイニコット 遊ぶことと現実 岩崎学術出版社		
	5	下山晴彦(編) 臨床心理学全書 臨床心理実習論 誠信書房		
	6	伊藤良子編著 遊戯療法 様々な領域の事例から学ぶ ミネルヴァ書房		
	7			
	8			
	9			
	10			
履修上の注意事項や 学習上の助言など	自らが体験したことを、丁寧に振り返り、言語化していくことが必須である。討論への積極的な参加、レポートへの熱心な取り組みを期待する。			

研究科・学年	臨床心理学研究科 1年						
講義番号	108	教科名	臨床心理基礎実習Ⅱ			授業形態	実験・実習
単位数	2	必・選	必修	開講時期	後期	担当者	小林 智・宮澤 淳滋
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	冊子の最後にある対照表を参照						
講義の概要 (教育目標を含む)	<p>心理実践実習Ⅰ・Ⅱでの心理面接事例担当に先立ち、心理臨床の基礎となる面接について学習する。</p> <p>①人と向かい合うことや「聴く」ことの実際を体験的に学習し、言語面接や心理療法の基礎、セラピストとしての基本姿勢を学ぶ。</p> <p>②学部学生の希望者をクライアント役とした試行カウンセリングを行ない、限りなく実践に近い実技を通して、個々の面接やカウンセリングの内容について詳細に検討する。</p> <p>③インテーク面接ロールプレイを通して、初回面接でのクライアントおよび事例の見立て方、報告書の記載の仕方を学ぶ。</p> <p>以上を通じて、実践場面における専門的な関わり方(being)を身につける。これらは臨床心理センターにおいて実際の事例を担当する上での基礎的訓練として位置づけられる。</p>						
学生の学習 (行動)目標	<p>・一対一の面接場面において、セラピストが備えておくべき基本姿勢を習得する。</p> <p>・話を「聴く」ことにまつわる難しさや、生身のやり取りにおいて生じる現象を実感を持って理解することができる。</p> <p>・「共感」「枠」などといった心理臨床学的な知識を実践的に捉えなおし、ディスカッションの中で検討することができる。</p>						

授業計画(シラバス)

回	内容	キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	オリエンテーション	試行カウンセリング、心理療法	<予習> 検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングの初回を実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
2回	インテーク面接ロールプレイ①	インテーク面接、見立て、事例報告書	<予習> 検討会までに模擬事例によるインテーク面接のロールプレイを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
3回	インテーク面接ロールプレイ②	インテーク面接、見立て、事例報告書	<予習> 検討会までに模擬事例によるインテーク面接のロールプレイを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
4回	インテーク面接ロールプレイ③	インテーク面接、見立て、事例報告書	<予習> 検討会までに模擬事例によるインテーク面接のロールプレイを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
5回	インテーク面接ロールプレイ④	インテーク面接、見立て、事例報告書	<予習> 検討会までに模擬事例によるインテーク面接のロールプレイを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
6回	インテーク面接ロールプレイ⑤	インテーク面接、見立て、事例報告書	<予習> 検討会までに模擬事例によるインテーク面接のロールプレイを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
7回	インテーク面接ロールプレイ⑥	インテーク面接、見立て、事例報告書	<予習> 検討会までに模擬事例によるインテーク面接のロールプレイを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
8回	インテーク面接ロールプレイ⑦	インテーク面接、見立て、事例報告書	<予習> 検討会までに模擬事例によるインテーク面接のロールプレイを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
9回	インテーク面接ロールプレイ⑧	インテーク面接、見立て、事例報告書	<予習> 検討会までに模擬事例によるインテーク面接のロールプレイを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
10回	インテーク面接ロールプレイ⑨	インテーク面接、見立て、事例報告書	<予習> 検討会までに模擬事例によるインテーク面接のロールプレイを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
11回	インテーク面接ロールプレイ振り返り	インテーク面接、見立て、事例報告書	<予習> 検討会までにこれまでのインテークロールプレイについての提出済みSVレポートを確認し、逐語記録とインテーク会議報告書を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。	4
12回	試行カウンセリング事例検討①	試行カウンセリング、心理療法	<予習> 検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
13回	試行カウンセリング事例検討②	試行カウンセリング、心理療法	<予習> 検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
14回	試行カウンセリング事例検討③	試行カウンセリング、心理療法	<予習> 検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
15回	試行カウンセリング事例検討④	試行カウンセリング、心理療法	<予習> 検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
16回	試行カウンセリング事例検討⑤	試行カウンセリング、心理療法	<予習> 検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
17回	試行カウンセリング事例検討⑥	試行カウンセリング、心理療法	<予習> 検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
18回	試行カウンセリング事例検討⑦	試行カウンセリング、心理療法	<予習> 検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
19回	試行カウンセリング事例検討⑧	試行カウンセリング、心理療法	<予習> 検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
20回	試行カウンセリング事例検討⑨	試行カウンセリング、心理療法	<予習> 検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
21回	試行カウンセリング事例検討⑩	試行カウンセリング、心理療法	<予習> 検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
22回	試行カウンセリング事例検討⑪	試行カウンセリング、心理療法	<予習> 検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
23回	試行カウンセリング事例検討⑫	試行カウンセリング、心理療法	<予習> 検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
24回	試行カウンセリング事例検討⑬	試行カウンセリング、心理療法	<予習> 検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
25回	試行カウンセリング事例検討⑭	試行カウンセリング、心理療法	<予習> 検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
26回	試行カウンセリング事例検討⑮	試行カウンセリング、心理療法	<予習> 検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習> 検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4

27回	試行カウンセリング事例検討⑩	試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
28回	試行カウンセリング事例検討⑪	試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
29回	試行カウンセリング事例検討⑫	試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	4
30回	試行カウンセリングについての振り返り	試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までにこれまでの試行カウンセリングについての提出済みSVレポートを確認し、完了した試行カウンセリングすべての逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出する。	4
計				120
成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	事例発表者の資料のまとめ方や、出席者の発言について授業内で教員からコメントが与えられる。
	試験			
	レポート	50%	備考	ほぼ毎回のレポート提出が義務付けられる。各回のディスカッションへの参加態度だけでなく、その他として本授業時間外実技への取り組みや、実習予定のスケジュール・連絡の自己管理についても評価する。
	学習態度	50%		
	その他			
計	100%			
テキスト	不要			
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	河合 隼雄 『カウンセリングを語る』上、下 講談社 + α 文庫		
	2	河合 隼雄 『カウンセリングを考える』上、下 創元こころ文庫		
	3	河合 隼雄 『カウンセリングの実践問題』誠信書房 1970		
	4	河合 隼雄 『新版 心理療法論考』創元社 2013		
	5	鐘 幹八郎 『試行カウンセリング』誠信書房 1977		
	6	鐘 幹八郎、名島潤慈 『心理臨床家の手引き(第4版)』誠信書房 2018		
	7	土居 健郎 『新版 方法としての面接 臨床家のために』医学書院 1977		
	8	馬場禮子 『精神分析的な心理療法の実践』岩崎学術出版社 1999		
	9			
	10			
履修上の注意事項や 学習上の助言など	カウンセリングや心理療法に関する基礎知識を事前に学習しておくことが必要となる。 また、各回のディスカッションでの積極的な発言を期待する。			

研究科・学年		臨床心理学研究科 1年					
講義番号	201	教科名	臨床心理演習 I			授業形態	演習
単位数	4	必・選	必・選	開講時期	通年	担当者	浅田 剛正・本間 恵美子・伊藤 真理子・宮澤 淳滋・引土 達雄・小林 智・小林 大介○真壁 あさみ
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	冊子の最後にある対照表を参照						
講義の概要 (教育目標を含む)	<p>臨床心理演習に参加する準備教育として、臨床心理士としてクライアントに接する基本的な技法と態度を学ぶ。</p> <p>① 附属臨床心理センターでの業務について実際的な内容を学び、社会に開かれた相談機関としての臨床心理的地域援助の実際や専門的倫理について理解を深める。</p> <p>② 臨床心理の実践で用いられ、特に臨床心理センターでの担当事例において直接クライアントに実施する可能性のある技法の扱いに習熟し、クライアントに益する形で心理臨床場面での活用ができるようになる。</p> <p>③ ファンタジーグループ、臨床動作法、グループワークといった専門的対人支援における介入法について、自身の体験や身体感覚を通して学ぶ。</p> <p>④ 臨床心理演習Ⅱ(M2配当)のケースカンファレンスに参加し、心理臨床の実践例に触れながらディスカッションを行う。守秘義務を遵守しつつ、個別的心理臨床事例の実際に触れる。</p>						
学生の学習 (行動)目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理臨床実践に関わる業務として必要な技法、知識を身につける。</li> <li>・各技法の習得を通して、全てに共通する心理臨床家としての基本姿勢や専門的視点を理解する。</li> </ul>						
授業計画(シラバス)							
回	内容		キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量			準備学習に要する時間
1回	臨床心理センター業務演習①(担当:伊藤・宮澤・本間)		臨床心理的地域援助・倫理	臨床心理センター業務についてマニュアル等を十分に理解できるよう復習すること。			2
2回	臨床心理センター業務演習②(担当:伊藤・宮澤・本間)		臨床心理的地域援助・倫理	臨床心理センター業務についてマニュアル等を十分に理解できるよう復習すること。			2
3回	言語連想法①(担当:浅田)		言語連想法・コンプレックス	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。演習後にレポートの提出を求める(復習)。			2
4回	言語連想法②(担当:浅田)		言語連想法・コンプレックス	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。演習後にレポートの提出を求める(復習)。			2
5回	動的家族画・スクイグル法①(担当:引土・宮澤)		動的家族画・スクイグル	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。演習後にレポートの提出を求める(復習)。			2
6回	動的家族画・スクイグル法②(担当:引土・宮澤)		動的家族画・スクイグル	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。演習後にレポートの提出を求める(復習)。			2
7回	心理臨床ケースカンファレンス		事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2
8回	心理臨床ケースカンファレンス		事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2
9回	ファンタジーグループ演習(担当:伊藤・浅田・真壁・小林(大)・宮澤)		フィンガーペインティング・コラージュ・ファンタジーグループ	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について復習しておくことが望ましい。			2
10回	ファンタジーグループ演習(担当:伊藤・浅田・真壁・小林(大)・宮澤)		フィンガーペインティング・コラージュ・ファンタジーグループ	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。			2
11回	心理臨床ケースカンファレンス		事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2
12回	心理臨床ケースカンファレンス		事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2
13回	ファンタジーグループ演習(担当:伊藤・浅田・真壁・小林(大)・宮澤)		フィンガーペインティング・コラージュ・ファンタジーグループ	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について復習しておくことが望ましい。			2
14回	ファンタジーグループ演習(担当:伊藤・浅田・真壁・小林(大)・宮澤)		フィンガーペインティング・コラージュ・ファンタジーグループ	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。			2
15回	心理臨床ケースカンファレンス		事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2
16回	心理臨床ケースカンファレンス		事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2
17回	言語的グループワーク(担当:小林(大))		グループワーク・集団力動	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について復習しておくことが望ましい。			2
18回	言語的グループワーク(担当:小林(大))		グループワーク・集団力動	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。			2
19回	心理臨床ケースカンファレンス		事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2
20回	心理臨床ケースカンファレンス		事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2
21回	バウムテスト・風景構成法(担当:宮澤)		バウムテスト・風景構成法	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について復習しておくことが望ましい。			2
22回	バウムテスト・風景構成法(担当:宮澤)		バウムテスト・風景構成法	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。			2
23回	心理臨床ケースカンファレンス		事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2
24回	心理臨床ケースカンファレンス		事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2
25回	臨床心理センター業務演習③(担当:伊藤・宮澤・本間)		電話対応・来談経緯	臨床心理センター業務についてマニュアル等を十分に理解できるよう復習すること。			2
26回	臨床心理センター業務演習④(担当:伊藤・宮澤・本間)		電話対応・来談経緯	臨床心理センター業務についてマニュアル等を十分に理解できるよう復習すること。			2
27回	心理臨床ケースカンファレンス		事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2
28回	心理臨床ケースカンファレンス		事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2
29回	臨床心理センター業務演習⑤(担当:伊藤・宮澤・本間・浅田)		インターネット面接・ケースフォーミュレーション	臨床心理センター業務についてマニュアル等を十分に理解できるよう復習すること。			2
30回	臨床心理センター業務演習⑥(担当:伊藤・宮澤・本間・浅田)		スーパーヴィジョン	臨床心理センター業務についてマニュアル等を十分に理解できるよう復習すること。			2
31回	箱庭療法①(担当:伊藤(真))		箱庭療法	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。			2
32回	箱庭療法②(担当:伊藤(真))		箱庭療法	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。			2
33回	心理臨床ケースカンファレンス		事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2
34回	心理臨床ケースカンファレンス		事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2
35回	箱庭療法③(担当:伊藤(真))		箱庭療法	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。			2
36回	箱庭療法④(担当:伊藤(真))		箱庭療法	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。			2
37回	心理臨床ケースカンファレンス		事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2
38回	心理臨床ケースカンファレンス		事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2

39回	箱庭療法⑤(担当:伊藤(真))	箱庭療法	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。	2
40回	箱庭療法⑥(担当:伊藤(真))	箱庭療法	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。	2
41回	心理臨床ケースカンファレンス	事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。	2
42回	心理臨床ケースカンファレンス	事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。	2
43回	コラージュ療法①(担当:真壁)	コラージュ療法	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい。演習後にレポートの提出を求める。	2
44回	コラージュ療法②(担当:真壁)	コラージュ療法	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。演習後にレポートの提出を求める(復習)。	2
45回	心理臨床ケースカンファレンス	事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。	2
46回	心理臨床ケースカンファレンス	事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。	2
47回	臨床描画法①(担当:浅田)	風景構成法、イメージ体験と関係性	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。	2
48回	臨床描画法②(担当:浅田)	風景構成法、解釈と見立て	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。	2
49回	心理臨床ケースカンファレンス	事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。	2
50回	心理臨床ケースカンファレンス	事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。	2
51回	臨床描画法③(担当:浅田)	MSSM、ラポール形成	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。	2
52回	臨床描画法④(担当:浅田)	MSSM、遊びと関係性	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。	2
53回	臨床動作法①(担当:本間)	動作・身体	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。	2
54回	臨床動作法②(担当:本間)	動作・身体	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。演習後にレポートの提出を求める(復習)。	2
55回	心理臨床ケースカンファレンス	事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。	2
56回	心理臨床ケースカンファレンス	事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。	2
57回	ライブスーパーヴィジョン①(担当:小林(智)・小林(大))	ライブスーパーヴィジョン	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。	2
58回	ライブスーパーヴィジョン①(担当:小林(智)・小林(大))	ライブスーパーヴィジョン	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。	2
59回	グループ体験①(担当:引土・小林(智)・小林(大)・真壁)	集団力動・リーダーシップ・役割・連携	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。	2
60回	グループ体験②(担当:引土・小林(智)・小林(大)・真壁)	集団力動・リーダーシップ・役割・連携	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。	2
計				120
成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	各演習における実施内容やプレゼンテーションに対しては、随時教員からのフィードバックがなされる。また、レポート等は適宜講義内容に活かされ、適宜コメントが返される。
	試験			
	レポート	40%	備考	
	学習態度	40%		
	その他	20%		
計	100%		レポート:テーマごとに各担当教員からレポート提出が課され、その達成内容が評価される。 学習態度:各回の演習への参加態度は、ディスカッションへの貢献度、臨床実践を想定した取り組み態度などを評価する。 その他:課外での準備・実技のための準備や、演習を通じた技能の習得度を評価する。	
テキスト	共通したテキストはなし。参考書や担当教員からの指示を参考にし、必要なものを適宜購入すること。			
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	心理臨床家の手引 第3版、鐘 幹八郎・名島 潤慈(編著)、誠信書房、2010		
	2	よくわかる心理臨床 皆藤章編、ミネルヴァ書房、2007		
	3	イメージの心理学 河合隼雄、青土社、1991		
	4	心理臨床実践におけるスーパーヴィジョン: スーパーヴィジョン学の構築 皆藤章他編、日本評論社、2014		
	5	箱庭療法入門 河合隼雄、誠信書房、1969		
	6	心理臨床家のための「事例研究」の進め方、山本力・鶴田和美(編著)、北大路書房、2001		
	7	風景構成法の現在(いま) 皆藤章・浅田剛正(編著)、誠信書房、2023		
	8			
	9			
	10			
履修上の注意事項や 学習上の助言など	<ul style="list-style-type: none"> <li>各演習内容・テーマについて、単に知識をつけるだけでなく、主体的な学びを通して自ら専門職として実施できるまで習得することが期待されている。随時、専門書や関連する研究論文などを自身で検索し、問題意識をもって学んでいくこと。</li> <li>演習内容の順序は変更することがある。また、臨床心理演習Ⅱとの組み合わせで変則的になるため、別途配布する日程表を参照すること。</li> </ul>			

研究科・学年		臨床心理学研究科 1年				授業形態		実験・実習			
講義番号	203	教科名	心理実践実習 I			単位数	4	担当者	伊藤真理子・本間恵美子・浅田剛正・小林智・小林大介・宮澤淳滋・引土達雄 ○真壁あさみ・○齋藤恵美・○佐藤修哉・☆中村協子・☆佐藤亨		
単位数	4	必・選	必・選	開講時期	通年	担当者	伊藤真理子・本間恵美子・浅田剛正・小林智・小林大介・宮澤淳滋・引土達雄 ○真壁あさみ・○齋藤恵美・○佐藤修哉・☆中村協子・☆佐藤亨				
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連											
講義の概要(教育目標を含む)	本学大学院付属臨床センター及び外部機関における実習を通じて、心理に関する支援を必要とする者(要支援者)等とのコミュニケーションのあり方や心理面接、心理検査についての知識と技能を身に付け、要支援者等の理解とニーズの把握及び支援方針の策定、チームアプローチや多職種連携、地域連携等について学ぶことを目的とする。										
学生の学習(行動)目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理的な支援を必要とする人と適切にコミュニケーションを取ることができる。</li> <li>・心理的な支援を必要とする人との心理面接を指導を受けながら実施することができる。</li> <li>・心理的な支援を必要とする人に対する心理検査を、指導を受けながら実施することができる。</li> <li>・心理的な支援を必要とする人のニーズについて理解し、説明することができる。</li> <li>・心理的な支援を必要とする人への支援について、チームアプローチや多職種連携、地域連携の必要性について理解し、説明することができる。</li> </ul>										
授業計画(シラバス)											
回	内容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量				準備学習に要する時間	
1-2回	臨床心理センター実習:全体オリエンテーション				臨床心理センター, 倫理	<復習>臨床心理センターの位置づけや実習を行うに当たっての心構えを復習する。				0	
3-4回	臨床心理センター実習:インテーク実習[インテーク会議参加]				インテーク会議, ケース理解	<復習>インテーク会議に提出されたケースについて、自分なりに考えをまとめる。				2	
5-6回	臨床心理センター実習:インテーク実習[インテーク会議参加]				インテーク会議, ケース理解	<復習>インテーク会議に提出されたケースについて、自分なりに考えをまとめる。				2	
7-8回	臨床心理センター実習:インテーク実習[インテーク会議参加]				インテーク会議, ケース理解	<復習>インテーク会議に提出されたケースについて、自分なりに考えをまとめる。				2	
9-10回	臨床心理センター実習:電話受付実習				電話受付, 要支援者	<予習>臨床心理センターのシステムや電話受付の方法について確認する。 <復習>実習体験や指導内容について振り返る。				4	
11-12回	臨床心理センター実習:電話受付実習				電話受付, 要支援者	<予習>臨床心理センターのシステムや電話受付の方法について確認する。 <復習>実習体験や指導内容について振り返る。				4	
13-14回	臨床心理センター実習:電話受付実習				電話受付, 要支援者	<予習>臨床心理センターのシステムや電話受付の方法について確認する。 <復習>実習体験や指導内容について振り返る。				4	
15-16回	臨床心理センター実習:電話受付実習				電話受付, 要支援者	<予習>臨床心理センターのシステムや電話受付の方法について確認する。 <復習>実習体験や指導内容について振り返る。				4	
17-18回	臨床心理センター実習:電話受付実習				電話受付, 要支援者	<予習>臨床心理センターのシステムや電話受付の方法について確認する。 <復習>実習体験や指導内容について振り返る。				4	
19-20回	臨床心理センター実習:インテーク実習[インテーク面接陪席]				インテーク面接, ケース理解, 査定	<予習>電話受付記録等を読み、ケースについて予め考えておく。 <復習>インテーク面接の記録を作り、インテーク担当者の指導を受ける。				6	
21-22回	臨床心理センター実習:インテーク実習[インテーク面接陪席]				インテーク面接, ケース理解, 査定	<予習>電話受付記録等を読み、ケースについて予め考えておく。 <復習>インテーク面接の記録を作り、インテーク担当者の指導を受ける。				6	
23-24回	臨床心理センター実習:インテーク実習[インテーク面接陪席]				インテーク面接, ケース理解, 査定	<予習>電話受付記録等を読み、ケースについて予め考えておく。 <復習>インテーク面接の記録を作り、インテーク担当者の指導を受ける。				6	
25-26回	臨床心理センター実習:ケース担当実習				面接, プレイセラピー, SV	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。				4	
27-28回	臨床心理センター実習:ケース担当実習				面接, プレイセラピー, SV	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。				4	
29-30回	臨床心理センター実習:ケース担当実習				面接, プレイセラピー, SV	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。				4	
31-32回	臨床心理センター実習:ケース担当実習				面接, プレイセラピー, SV	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。				4	
33-34回	臨床心理センター実習:ケース担当実習				面接, プレイセラピー, SV	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。				4	
35-36回	臨床心理センター実習:ケース担当実習				面接, プレイセラピー, SV	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。				4	
37-38回	臨床心理センター実習:ケース担当実習				面接, プレイセラピー, SV	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。				4	
39-40回	臨床心理センター実習:心理査定実習[準備実習WAIS]				心理査定, WAIS	<予習>WAISの実施法について復習しておく。 <復習>実施したWAISについて報告書を作成する。				6	
41-42回	臨床心理センター実習:心理査定実習[準備実習WAIS]				心理査定, WAIS	<予習>WAISの実施法について復習しておく。 <復習>実施したWAISについて報告書を作成する。				6	
43-44回	臨床心理センター実習:心理査定実習[準備実習WISC]				心理査定, WISC	<予習>WISCの実施法について復習しておく。 <復習>実施したWISCについて報告書を作成する。				6	
45-46回	臨床心理センター実習:心理査定実習[準備実習WISC]				心理査定, WISC	<予習>WISCの実施法について復習しておく。 <復習>実施したWISCについて報告書を作成する。				6	
47-48回	臨床心理センター実習:心理査定実習[査定カンファレンス]				心理査定, カンファレンス	<予習>実施された心理査定について、予め学んでおく。 <復習>カンファレンスで話し合われたことについて振り返っておく。				2	
49-50回	臨床心理センター実習:心理査定実習[査定カンファレンス]				心理査定, カンファレンス	<予習>実施された心理査定について、予め学んでおく。 <復習>カンファレンスで話し合われたことについて振り返っておく。				2	
51-52回	外部機関実習:見学実習(保健医療領域)				精神科病院, デイケア	<予習>実習先の位置づけや実習先で求められる行動について、予め学んでおく。 <復習>実習先で体験を振り返り、報告書を作成する。				4	
53-54回	外部機関実習:見学実習(教育領域)				教育相談センター, 不登校	<予習>実習先の位置づけや実習先で求められる行動について、予め学んでおく。 <復習>実習先で体験を振り返り、報告書を作成する。				4	
55-56回	外部機関実習:見学実習(福祉領域)				児童相談所, 児童福祉	<予習>実習先の位置づけや実習先で求められる行動について、予め学んでおく。 <復習>実習先で体験を振り返り、報告書を作成する。				4	
57-58回	外部機関実習:見学実習(司法犯罪領域)				少年鑑別所, 非行少年	<予習>実習先の位置づけや実習先で求められる行動について、予め学んでおく。 <復習>実習先で体験を振り返り、報告書を作成する。				4	
59-60回	外部機関実習:見学実習(産業労働領域)				就労支援, 若者	<予習>実習先の位置づけや実習先で求められる行動について、予め学んでおく。 <復習>実習先で体験を振り返り、報告書を作成する。				4	
計										120	
成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	・それぞれの実習の振り返りや報告会等において、実習担当教員や実習先の実習指導者がフィードバックを行う。							
	試験										
	レポート										30%
	学習態度										70%
	その他										
計		100%	備考	・成績評価は、様々な実習における成績を総合的に勘案して評価する。 ・学習態度の評価基準は、実習への取り組みの態度・目的意識、担当教員や実習指導者との検討内容と理解度、臨床事例に対する理解度と対応などである。							

テキスト	・特になし。	
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	臨床心理士をめざす大学院生のための精神科実習ガイド、津川律子・橋玲子、誠信書房、2009
	2	レクチャー心理臨床入門、一丸藤太郎・栗原和彦編、創元社、2005
	3	カウンセリングの実際問題、河合集雄、誠信書房、1970
	4	心理臨床家の手引き第3版、鐘幹八郎・名島潤慈編著、誠信書房、2010
	5	臨床心理実習論(臨床心理学全書第4巻)、下山 晴彦 編、誠信書房、2003
	6	方法としての面接—臨床家のために、土居 健郎、医学書院、1992
	7	面接法、熊倉伸宏、新興医学出版社、2002
	8	
	9	
	10	
履修上の注意事項や 学習上の助言など		

研究科・学年		臨床心理学研究科 1年						
講義番号	205	教科名				臨床心理学研究法特論	授業形態	講義
単位数	2	必・選	選必	開講時期	前期	担当者	碓井 真史・浅田 剛正	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照						
講義の概要 (教育目標を含む)		日本臨床心理士会によれば、臨床心理士の4つの専門的技術として、アセスメント、面接、地域援助、そして研究があげられている。臨床と研究は、本来車の両輪とも言えるものだろう。研究は、研究者のためのものだけでなく、臨床家の臨床実践をより豊かに行うためのものでもある。この講義では、臨床心理学研究法を学び、将来の臨床心理士としての活動に役立てるとともに、修士論文作成のために役立つ知識と技術を学ぶことを目標とする。講義の前半は、特に心理学全般に関わる研究法を、後半は得に臨床心理学独自の研究法について学んでいく。						
学生の学習 (行動)目標		研究法の基礎を学び、実際にデータを取得し、論文が書ける知識と技術を身につける。						
授業計画(シラバス)								
回	内容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	科学とは何か				科学史・科学哲学	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
2回	「問題」:テーマの絞り方・研究史のまとめ方				文献研究・研究史	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
3回	「方法」:調査・観察・実験				データ収集	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
4回	「結果」:統計の意義、検定の意味				データ分析	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
5回	「考察」:事実と意見、論理的な位置づけと含意				仮説検証	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
6回	心理学論文の書き方				論文執筆作法	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
7回	臨床の知、科学の知				コスモロジー・シンボリズム	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
8回	質的研究				定性的研究・内奥分析	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
9回	面接法				構造化面接法・非構造化面接法	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
10回	評価(効果)研究				有効性・メタ分析	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
11回	事例研究				関与的観察	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
12回	研究と倫理				人権・自己決定権	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
13回	実際の研究事例				ケーススタディー・面接法	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
14回	各自の研究計画について				オリジナリティ・新規性	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
15回	まとめ 臨床心理学研究の困難さと重要性				研究の意義	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
16回	定期試験							4
計								64
成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	各自の発表に対するコメント				
	試験	100%						
	レポート							
	学習態度		備考					
	その他							
	計	100%						
テキスト								
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	松井豊著『三訂版 心理学論文の書き方 卒業論文や修士論文を書くために』2022						
	2	石原 宏 著『臨床心理学研究法特論(新訂)(放送大学大学院教材)』2023						
	3							
	4							
	5							
	6							
	7							
	8							
	9							
	10							
履修上の注意事項や学習上の助言など								

研究科・学年		臨床心理学研究科 1年						
講義番号	206	教科名				心理学研究法演習 I	授業形態	確認中
単位数	2	必・選	選必	開講時期	前期	担当者	○新國 佳祐	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照						
講義の概要 (教育目標を含む)		臨床心理学研究を進めるために、その基礎となる心理学研究法に熟習することを目的とする。特に、心理学研究を行う上では必須であるデータの統計的分析手法に関して具体的な演習をまじえながら習得し、データの収集および得られたデータの統計解析を独力で行うための基礎的な知識とスキルを身につけると同時に、研究論文等に記載された数的データと統計解析結果を適切に読み取ることができるようになることを目標とする。講義では、前半(第1回～第10回)で主に量的データ(間隔・比率尺度データ)についての分析を扱い、後半(第11回～第15回)で主に質的データ(名義・順序尺度データ)についての分析を扱う。						
学生の学習 (行動)目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験・調査計画に合わせて適切な統計的検定を選択して実施し、その結果を誤りなく記述することができる。</li> <li>・数量データを適切に視覚化でき、かつ視覚化されたデータが示す意味を正確に読み取ることができる。</li> <li>・数値要約と分析の方法を理解し、研究論文の読解や研究計画の立案に生かすことができる。</li> </ul>						
授業計画(シラバス)								
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	イントロダクション:心理学における数的データと実験・調査計画				条件設定、標本抽出、尺度判定	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。		4
2回	量的データの処理1				ヒストグラム、平均、標準偏差	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。		4
3回	量的データの統計検定2:t検定				t検定、有意差、F検定	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。		4
4回	量的データの統計検定3:実験計画				要因、水準、参加者間/参加者内計画	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。		4
5回	量的データの統計検定4:分散分析(1要因)				主効果、多重比較	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。		4
6回	量的データの統計検定5:分散分析(2要因以上)				交互作用、単純主効果	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。		4
7回	量的データの処理2				相関、変数、回帰、散布図	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。		4
8回	量的データの統計検定6:相関分析				相関の有意性、相関の強さ	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。		4
9回	量的データの統計検定7:多変量解析				因子分析、(重)回帰分析	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。		4
10回	量的データ分析の実際				論文講読	予習:教材の論文に目を通しておくこと。 復習:第1回～第9回までの内容をレポートにまとめること。		4
11回	質的データの処理1				クロス集計表	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。		4
12回	質的データの統計検定1:カイニ乗検定				カイニ乗検定、直接確率検定、残差分析	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。		4
13回	質的データの処理2				中央値、レンジ	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。		4
14回	質的データの統計検定2:順序データの検定法				メディアン検定、サイン検定、順位相関	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。		4
15回	質的データ分析の実際				論文講読	予習:教材の論文に目を通しておくこと。 復習:第11回～第14回までの内容をレポートにまとめること。		4
16回								
計								60
成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	・授業内作業の成果物(データの分析結果等)や宿題の提出物に対して、教員がその場でコメントをする。				
	試験							
	レポート	70%						
	学習態度	30%						
	その他							
	計	100%	備考	・レポートは期間中1回課す。 ・学習態度は、グループワークや意見交換など授業へ積極的に参加する姿勢や授業中の発言・態度、演習への取組状況を元に評価する。				
テキスト	なし							
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法、田中敏・山際勇一郎、教育出版、1992						
	2	よくわかる心理統計(やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)、山田 剛史・村井 潤一郎、ミネルヴァ書房、2004						
	3	心理学のためのデータ解析テクニカルブック、森敏昭・吉田寿夫、北大路書房、1990						
	4	本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本、吉田寿夫、北大路書房、1998						
	5	Excelでやさしく学ぶ統計解析、石村貞夫他、東京図書、2013						
	6							
	7							
	8							
	9							
	10							
履修上の注意事項や学習上の助言など	授業には毎回ExcelのインストールされたPCを持参すること。							

研究科・学年		臨床心理学研究科 1年					
講義番号	207	教科名 臨床心理倫理特論					授業形態 講義
単位数	2	必・選	選必	開講時期	後期	担当者	引士 達雄
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	冊子の最後にある対照表を参照						
講義の概要 (教育目標を含む)	職業倫理とは、ある職業集団のメンバーが社会に対して行う行為について規定し律する行動規範であり、専門職として社会的責任を果たす上で必要不可欠なものである。この職業倫理が十分に実践されることによって、より良い臨床行為が生まれ、クライアントの福祉や社会全体への貢献につながる。また、精神保健福祉法の成り立ちと趣旨を理解することは、心理臨床における倫理実践と深く関わっている。本講義では、高度専門職業人としての臨床心理士に必要な職業倫理の原則や倫理的意思決定プロセスを学び、臨床実践力を養うことをねらいとする。常に複雑かつ流動的な心理臨床の場において、即時に的確な倫理的判断を行えるよう、判断の基準やプロセスを学び、さらに架空事例についてのグループ討議や体験学習によって具体的な問題解決のためのスキルを身につける。						
学生の学習 (行動)目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理臨床実践における職業倫理の必要性について理解し、詳しく述べることができる。</li> <li>2. 臨床心理士の倫理原則について、専門用語を用いて説明できる。</li> <li>3. 具体的な臨床場面における倫理的問題を見出し、その根拠と適切な対応を述べることができる。</li> <li>4. 倫理的意思決定プロセスの方法を理解し、現実場面に応用できる。</li> </ol>						
授業計画(シラバス)							
回	内 容		キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量			準備学習に要する時間
1回	イントロダクション		職業倫理と専門性	配布資料ならびに、下記にあげてある参考書の倫理に関する概論の章を読み復習する			3
2回	医療倫理、精神医学と心理学の倫理・他専門職の倫理		専門職倫理	配布資料ならびに、下記にあげてある参考書の生命科学における倫理に関する章を読み復習する			3
3回	臨床心理士の倫理原則Ⅰ：基本的倫理と責任		基本的倫理と責任	配布資料ならびに、下記にあげてある参考書の基本的倫理に関する章を読み復習する。			4
4回	臨床心理士の倫理原則Ⅱ：秘密保持		秘密保持	配布資料ならびに、下記にあげてある参考書の秘密保持に関する章を読み復習する			4
5回	臨床心理士の倫理原則Ⅲ：インフォームド・コンセント		インフォームド・コンセント	配布資料ならびに、下記にあげてある参考書のインフォームド・コンセントに関する章を読み復習する			4
6回	臨床心理士の倫理原則Ⅳ：対象者との関係、多重関係の問題		多重関係	配布資料ならびに、下記にあげてある参考書の多重関係に関する章を読み復習する			4
7回	臨床心理士の倫理原則Ⅴ：職能的資質の向上		職能的資質の向上	配布資料ならびに、下記にあげてある参考書の専門的能力に関する章を読み復習する			4
8回	まとめ その1		倫理原則	第2回から第7回の内容について、配布資料を中心に復習しておく			6
9回	精神保健福祉法(外部講師)		精神保健福祉法	精神保健福祉法の講義の内容についてレポート提出(復習)			4
10回	心理臨床実践における倫理Ⅰ：グループ討議		事例検討、架空事例	架空事例ディスカッションとポイントを復習し整理しておく			4
11回	心理臨床実践における倫理Ⅱ：グループ討議		事例検討、架空事例	架空事例ディスカッションとポイントを復習し整理しておく			4
12回	心理臨床実践における倫理Ⅲ：グループ討議		事例検討、架空事例	架空事例ディスカッションとポイントを復習し整理しておく			4
13回	心理臨床実践における倫理Ⅳ：グループ討議		事例検討、架空事例	架空事例ディスカッションとポイントを復習し整理しておく			4
14回	心理臨床実践における倫理Ⅴ：グループ討議		事例検討、架空事例	架空事例ディスカッションとポイントを復習し整理しておく			4
15回	まとめ その2		まとめ	第10回から第14回的事例及び討議のポイントを整理し復習しておく			4
16回							
計							60
成績評価	小テスト	40%	学習成果のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業でリアクションペーパーの配布と回収を行い、次回の授業時にフィードバックが行われる。興味関心が院生間で集中している場合は、授業時間中にその分野について説明を行う。</li> <li>・小テストの結果について、個々にフィードバックを行う。</li> <li>・毎回のディスカッションについてコメントをする。</li> <li>・それまでの内容を把握できているのかを確認するために小テストを1～2回行う。</li> <li>・授業内容の理解を深めるため、レポート提出を求める。</li> <li>・学習態度は、授業中の討論及び演習に取り組む態度をもとに評価する。</li> </ul>			
	試験	0%					
	レポート	30%					
	学習態度	30%	備考				
	その他	0%					
計		100%					
テキスト	なし。適宜プリントを配布する。						
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	臨床心理学の倫理を学ぶ、金沢吉展、東京大学出版会、2006					
	2	心理臨床と倫理、村本詔司、未登書房、1998					
	3	心の専門家が出会う法律－臨床実践のために(第3版)佐藤進監修、津川律子・元永拓郎編、誠信書房、2009					
	4	臨床心理学1 カウンセリングと精神療法(心理治療)、氏原寛・成田善弘、培風館、1999					
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
履修上の注意事項や学習上の助言など	グループ討議や体験学習を重視するので、個々人が積極的な姿勢で授業に臨むことを求める。						

研究科・学年		臨床心理学研究科 1年						
講義番号	209	教科名			精神保健医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	授業形態	講義	
単位数	2	必・選	選必	開講時期	前期集中	担当者	浅田 剛正・関谷 昭吉・☆村松 公美子・☆横山 知行	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	1) 臨床心理学の専門家としての臨床実践力および倫理観を身につけている。2) 臨床実践に基づいた臨床心理学的知識を視点・心理学及び関連領域の高度専門的知識を身につけている。							
講義の概要(教育目標を含む)	臨床心理学と関連する精神保健医学について知識を深めることを目的とする。精神保健医学の方法論、診断学、症状学、面接、精神疾患の基礎知識、精神科薬物療法を中心に学ぶ。臨床心理学と関係が深い心身症および心身両面に関わる疾患、症状、病態、問題行動などについての精神医学的知識や対応、また、精神科臨床や精神保健領域において、臨床心理家が会おうことの多い支援現場の実際と法規、制度を実践現場の実際と照らしながら学ぶ。							
学生の学習(行動)目標	精神疾患および薬物療法についての基礎知識を獲得する。基礎知識をもとに臨床心理士、公認心理師として要請される精神科、小児科や精神保健福祉との連携について学ぶ。							
授業計画(シラバス)								
回	内容			キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間	
1回	臨床心理と精神医療(授業オリエンテーション):浅田			医学的治療と心理支援、診断とアセスメント、症候論、病理性	既習の精神保健医学の知識の予習、配布プリントの復習		4	
2回	神経症圏の諸症状の理解と支援:浅田			ヒステリー、ストレス性障害、適応障害、被害者支援、心理療法	課題の予習、配布プリントの予習、レポート課題による復習		4	
3回	医療領域における他職種連携:浅田(外部講師招聘)			チーム医療、多職種連携、小児科医療現場の実際、小児の心身発達	配布プリントの予習、レポート課題による復習		4	
4回	不安または恐怖関連症群、強迫症または関連症群、解離症群の理解と支援:横山			全般性不安障害、パニック障害、強迫症、解離症、外傷後ストレス障害	指定教科書該当ページの予習、配布プリントによる復習		4	
5回	気分症群の理解と支援:横山			Major Depression、Bipolar Disorder I、II	指定教科書該当ページの予習、配布プリントによる復習			
6回	食行動症または摂食症群、睡眠-覚醒の障害の理解と支援:横山			神経性食欲不振症、過食症	指定教科書該当ページの予習、配布プリントによる復習		4	
7回	神経発達症群の理解と支援:横山			発達障害、ASD、ADHD	指定教科書該当ページの予習、配布プリントによる復習		4	
8回	脳神経系(脳とこころ)の構造と機能:村松			大脳、神経細胞、扁桃体、海馬、神経伝達物質、認知症	指定教科書p22-26の予習、配布プリントおよび設問集の復習		4	
9回	統合失調症(妄想性障害含む)の理解と支援:村松			陽性症状 陰性症状、有病率 性差	指定教科書p120-133の予習、配布プリントおよび設問集の復習		4	
10回	心身症(身体症状含む)の理解と支援:村松			身体症状症(身体表現性障害)、変換症(転換性障害) 心気障害(病気不安障害)	指定教科書p220-232の予習、配布プリントおよび設問集の復習		4	
11回	精神科薬物療法(その他の生物学的治療):村松			抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬 抗認知症薬	指定教科書p323-398の予習、配布プリントおよび設問集の復習		4	
12回	保健医療分野法規と制度①:関谷			精神保健福祉法 他関係法規	指定教科書p412~435の予習、配布プリントおよび設問集の復習		4	
13回	保健医療分野法規と制度②:関谷			社会 地域 医療 産業 司法	指定教科書p438~495の予習、配布プリントおよび設問集の復習		4	
14回	精神保健に関する理論と支援:関谷			自殺予防、メンタルヘルス	配布プリントの予習、レポート課題による復習		4	
15回	地域保健に関する理論と支援:関谷			地域介入 心理支援	配布プリントの予習、レポート課題による復習		4	
16回								
計							56	
成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	・授業時に全体評価のフィードバックを行う				
	試験							
	レポート	60%						
	学習態度	40%						
	備考							・各タームに応じて領域ごとの小レポートを課す。 ・学習態度は、プレゼンテーション、質疑応答について評価する。
その他								
計	100%							
テキスト	「知っておきたい精神医学の基礎知識 第2版」誠信書房 上島国利ら 2013年 3900円+税							
テキスト以外の参考書(番号は、推薦順)(図書館備付)	1	「精神科診察診断学」医学書院 古川壽亮 2003年 販売終了 図書館備付						
	2	「カプラン 臨床精神医学ハンドブック 第4版」メディカルサイエンスインターナショナル 岩崎淳 2020年 6800円+税						
	3	「看護のための精神医学 第2版」医学書院 中井久夫・山口直彦 2001年 2800円+税						
	4	「精神医学テキスト 改訂第3版」南江堂 上島国利ら 2023年 4200円+税						
	5							
	6							
	7							
	8							
	9							
	10							
履修上の注意事項や学習上の助言など	講義形式とゼミ形式で行う。ゼミ形式では、与えられた課題について各人が予習をし、担当部分のプレゼンテーションを行う。その後の全員で質疑を通して理解を深める。							

研究科・学年		臨床心理学研究科 1年					
講義番号	213	教科名	産業保健心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)			授業形態	講義
単位数	2	必・選	選必	開講時期	後期	担当者	碓井 真史・小林 智・小林 大介・★齋藤 智・★宮崎 隆穂
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	1) 臨床心理学の専門家としての臨床実践力および倫理観を身につけている。2) 臨床実践に基づいた臨床心理学的知識を視点・心理学及び関連領域の高度専門的知識を身につけている。						
講義の概要(教育目標を含む)	臨床心理学と関連する産業・労働分野に関する産業保健心理学の理論と支援の展開についての知識を深めることを目的とする。						
学生の学習(行動)目標	産業・労働分野に関する産業保健心理学の知識を獲得する。基礎知識をもとに産業・労働分野における心理学的支援の実践について学ぶ。						
授業計画(シラバス)							
回	内 容		キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間	
1回	産業保健心理学総論		産業保健、心理的支援	予習:産業保健と心理的支援について調べてくる。		4	
2回	民間企業における組織と役割について知ること、自身の関わり方について考える		会社形態、社内組織、人事	予習:民間企業における会社形態とその特徴について調べる 復習:配布資料に基づきノートを整理すること。		4	
3回	人事管理という仕事(1):社外から人を採用する過程と人事管理について考える		人事管理、採用、異動	予習:民間企業における人事の仕事とその特徴について調べる 復習:配布資料に基づきノートを整理すること。		4	
4回	人事管理と言う仕事(2):社員の生活環境変化とストレスへの対応を人事部視点で考える		福利厚生、ストレス、人事部	予習:人事関連業務におけるストレスへの対応として求められる業務を調べる 復習:配布資料に基づきノートを整理すること。		4	
5回	職場の社会心理学		社会的認知、認知バイアス、臨床社会心理学	予習:社会心理学の全般的知識の確認 復習:社会心理学の産業分野における応用について整理		4	
6回	職場の人間関係		帰属理論、ハラスメント、心理的安全性	予習:対人認知、対人行動に関する知識の確認 復習:心理的安全性の保たれた職場に関する整理		4	
7回	職場のメンタルヘルス1		健康診断 過重労働対策 ストレスチェック制度 面接指導	予習:職場の健康診断の「目的」を調べてくる。 予習:ストレスチェック制度を調べてくる。		4	
8回	職場のメンタルヘルス2		職場のメンタルヘルス対策 精神疾患	予習:働く人のメンタルヘルスと精神疾患について調べてくる。 復習:配布資料に基づきノートを整理すること。		4	
9回	職場のメンタルヘルス3		心理学的支援 産業医 関係者へのコンサルテーション、コラボレーション	予習:働く人の心理学的支援について調べてくる。 復習:配布資料に基づきノートを整理すること。		4	
9回	職場のメンタルヘルスと復職支援(リワーク支援)		復職支援 リワーク支援	予習:メンタルヘルス不調者の復職支援について調べてくる。 復習:配布資料に基づきノートを整理すること。		4	
11回	職場における臨床心理相談/ストレスケア(一般職、管理職)		職場における臨床心理相談/ストレスケア(一般職、管理職)	予習:ストレスマネジメントの方法について自分なりに調べておく 復習:授業で扱った内容について整理する		4	
12回	職場におけるストレスマネジメント		ストレスマネジメント、リラクゼーション	予習:リラクゼーションの方法について自分なりに調べておく 復習:授業で扱った内容について整理する		4	
13回	DCSモデルによる産業ストレスの理解と実践		DCSモデル(Demand Control Support)、EPA	予習:DCSモデル、EPAについて自分なりに調べておく 復習:授業で扱った内容について整理する		4	
14回	健康的な労働意欲		社会的動機、達成動機、内発的動機づけ	予習:社会的動機に関する知識の確認 復習:健康的な労働意欲に関する整理		4	
15回	産業保健心理学(各論の総括)		産業、労働、意欲、健康	各論について総括をする。		4	
16回	定期試験					4	
計						60	
成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	オムニバス形式のため、それぞれのセクションごとにフィードバックを行う。			
	試験	70%					
	レポート						
	学習態度	20%	備考	オムニバス形式のため、それぞれのセクションごとに成績評価を行い総合得点で評価する。			
	その他	10%					
計		100%					
テキスト	テキストはなし 配布資料						
テキスト以外の参考書(番号は、推薦順)(図書館備付)	1	産業保健心理学 島津 明人(著) 島井 哲志(監修) 日本健康心理学会 2017					
	2	社会人のための産業カウンセリング入門、宮城まり子他、産業能率大学出版部(2014)					
	3	「新しい人事労務管理」(第5版) 佐藤博樹、藤村博之、八代充史、有斐閣アルマ、2015年					
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
履修上の注意事項や学習上の助言など	オムニバス形式のため、それぞれのセクションの担当教員の授業形式をとる。						

研究科・学年		臨床心理学研究科 1年						
講義番号	215	教科名				心理学研究法演習Ⅱ	授業形態	確認中
単位数	2	必・選	選必	開講時期	前期	担当者	本間 恵美子	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	冊子の最後にある対照表を参照							
講義の概要 (教育目標を含む)	心理学における研究をする際に用いられることの多い、質問紙調査についての理解を深める。1～6回は、質問紙を作成し、項目を精選していくための方法について学習する。7～15回は、質問紙調査で収集した量的データを分析する際に用いられる代表的な多変量解析についての考え方や手法について習得する。							
学生の学習 (行動)目標	1. 質問紙作成、調査の実施、尺度の検討する際の方法について説明できる。 2. 量的データを多変量解析を用いて分析する際に、適切な方法を選択し、基本的な分析ができる。							
授業計画(シラバス)								
回	内 容			キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量			準備学習に要する時間
1回	質問紙作成の基礎			項目作成、回答方法、ワーディング	復習:テキスト1pp.10-17および配布資料に基づきノートを整理し、理解すること。			4
2回	質問紙の実施方法			フェースシートの作成、サンプリング、コーディング	復習:テキスト1pp.18-28および配布資料に基づきノートを整理し、理解すること。			4
3回	尺度の信頼性			信頼性係数、再検査法、 $\alpha$ 係数	復習:テキスト1pp.66-68および配布資料に基づきノートを整理し、理解すること。			4
4回	尺度の妥当性			内容的/基準関連/構成概念妥当性	復習:テキスト1pp.69-70および配布資料に基づきノートを整理し、理解すること。			4
5回	質問項目の精選			信頼性/妥当性の向上	復習:テキスト1pp.71-74および配布資料に基づきノートを整理し、理解すること。			4
6回	項目分析			項目反応理論	復習:テキスト1p.105および配布資料に基づきノートを整理し、理解すること。			4
7回	回帰分析			変数の投入、分散分析、標準化係数、多重共線性	復習:テキスト2pp.87-100および配布資料に基づきノートを整理し、理解すること。			4
8回	因子分析			因子の推定方法、因子抽出法、斜交回転	復習:テキスト2pp.101-123および配布資料に基づきノートを整理し、理解すること。			4
9回	クラスター分析			階層的クラスター分析、個体/変数間の距離、デンドログラム	復習:配布資料に基づきノートを整理し、理解すること。			4
10回	SPSSによる多変量解析1:データの加工			データの加工、コーディング	復習:配布資料に基づきノートを整理し、理解すること。			3
11回	SPSSによる多変量解析2:重回帰分析			強制投入法、決定係数、標準化係数、共線性の診断	予習:テキスト2pp.87-100および配布資料を再読すること。			3
12回	SPSSによる多変量解析3:因子分析			探索的因子分析、因子負荷量、因子の解釈	予習:テキスト2pp.101-123および配布資料を再読すること。			3
13回	SPSSによる多変量解析4:クラスター分析			ワード法、データの標準化	予習:クラスター分析の配布資料を再読すること。			3
14回	多変量解析の実際1:購読論文の発表(ディスカッション)			多変量解析、論文購読	予習:各自選定した論文の発表資料を準備する。 復習:各自発表した資料をもとにレポートを作成する。			6
15回	多変量解析の実際2:購読論文の発表(ディスカッション)			多変量解析、論文購読	予習:各自選定した論文の発表資料を準備する。 復習:各自発表した資料をもとにレポートを作成する。			6
16回								
計								60
成績評価	小テスト	40%	学習成果のフィードバック	・小テストは採点后、返却する。				
	試験							
	レポート	40%						
	学習態度	20%	備考	・小テストは第8回の授業時に行う。 ・第14回、第15回では、実際の研究論文のデータ分析に関わる部分をまとめ、発表した後、レポートを提出する。 ・学習態度は、ディスカッションや演習での取組状況などをもとに評価する。				
	その他							
計	100%							
テキスト	1. 「質問紙法」鎌原雅彦、他著、北大路書房、1998 ¥1,500+税 2. 「SPSS統計解析マニュアル」米川和雄・山崎貞政著、2010 ¥1,800+税							
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	「教育・心理系研究のためのデータ分析入門」平井明代編著、東京図書、2012						
	2	「心理学統計法」繁洲算男・山田剛史編、遠見書房、2019						
	3	「原因を探る統計学」豊田秀樹、他著、講談社、1992						
	4	「SPSSによる統計解析入門」小田利勝著、プレアデス出版、2007						
	5	「多変量データ解析法」足立浩平著、ナカニシヤ出版、2006						
	6	「質問紙調査と心理測定尺度」宮本聡介・宇井美代子編、サイエンス社、2014						
	7	「研究論文を読み解くための多変量解析入門:基礎編」L. G. グリム・P. G. ヤーノルド編 北大路書房、2016						
	8	「SPSSとAmosによる心理・調査データ解析(第2版)」小塩真司著、東京図書、2011						
	9	「社会調査の考え方(上・下)」佐藤郁哉著 東京大学出版会 2015						
	10							
履修上の注意事項や学習上の助言など								

研究科・学年		臨床心理学研究科 1年							
講義番号	216	教科名				メンタルヘルス特論(心の健康教育に関する理論と実践)		授業形態	講義
単位数	2	必・選	選必	開講時期	前期	担当者	○齋藤 恵美・☆榎谷 晶子		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	冊子の最後にある対照表を参照								
講義の概要(教育目標を含む)	メンタルヘルスとは、心の健康の維持を意味する。人間は生きていく上で、誰でも様々なストレスにさらされている。心の健康維持とストレスの関連性についての理論を学び、心の健康を保つためのメンタルヘルス対策について心理職として求められる臨床実践力を身に付ける。メンタルヘルス対策は心の健康教育でもあり、その対象は子どもから老人にいたるまでの全ての年代に亘り、必要とされる心理実践領域も多岐に及ぶ。それぞれの年代・ライフステージ、様々な領域での具体的な実践状況を架空事例を通して検討し、メンタルヘルス対策についての理解と学びを深める。								
学生の学習(行動)目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>心の健康とストレスの関連性について理解し、詳しく述べる事が出来る。</li> <li>メンタルヘルス対策に必要なスキルを学び、実践場面での課題に気付き判断し適切な対処を説明することが出来る。</li> <li>様々な領域において生ずるストレスの影響をアセスメントし、説明できる。</li> </ol>								
授業計画(シラバス)									
回	内容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量			準備学習に要する時間
1回	イントロダクション:心の健康教育と心理職の役割				心理教育、健康日本21、健康観、ウェルビーイング	<復習>授業内容をノートに各自まとめること			4
2回	心の健康教育に関する理論①予防的アプローチ				予防、ポジティブ・ヘルス、メンタルヘルス・リテラシー	<復習>授業内容をノートに各自まとめること			4
3回	心の健康教育に関する理論②健康行動理論				トランスセオレティカルモデル、行動変容ステージ	<復習>授業内容をノートに各自まとめること			4
4回	心の健康教育に関する理論③ストレス理論				トランスアクションモデル、ストレスマネジメント	<復習>授業内容をノートに各自まとめること			4
5回	心の健康教育の実践例①学校におけるストレスマネジメント				社会的スキル、アサーション	<予習>指定された資料をレジュメにまとめ、発表の準備をすること			4
6回	心の健康教育の実践例②自殺予防教育				自殺予防教育	<予習>指定された資料をレジュメにまとめ、発表の準備をすること			4
7回	心の健康教育の実践例③職場におけるストレスマネジメント				セルフケア教育、メンタルヘルス研修	<予習>指定された資料をレジュメにまとめ、発表の準備をすること			4
8回	心の健康教育の実践例④心の減災教育				心的外傷後ストレス障害、心理的応急処置(PFA)	<予習>指定された資料をレジュメにまとめ、発表の準備をすること			4
9回	メンタルヘルス対策の実際				行政(国・自治体)の取り組み	<復習>授業内容をノートに各自まとめ、メンタルヘルス関連の法律を調べる			4
10回	心の健康に関する相談事業① セフティ・ネットとしての「心の健康相談」				自殺予防対策 社会のセフティネット	<復習>授業内容をノートに各自まとめ、授業テーマの実施状況を調べる			4
11回	心の健康に関する相談事業② 電話相談の実際				電話相談	<復習>授業内容をノートに各自まとめ、授業テーマの実施状況を調べる			4
12回	災害時の心のケア① 災害時の精神医療、サイコソジカル・ファーストエイド				地域精神保健福祉活動、官民連携	<復習>授業内容をノートに各自まとめ、授業テーマの実施状況を調べる			4
13回	災害時の心のケア② 支援者支援				被災地の公務員・医療福祉関係者	<復習>授業内容をノートに各自まとめ、授業テーマの実施状況を調べる			4
14回	職場のメンタルヘルス				企業のメンタルヘルス対策 医療福祉領域の現場の問題	<復習>授業内容をノートに各自まとめ、授業テーマの実施状況を調べる			4
15回	まとめとグループワーク(対人援助職とレジリエンス)				レジリエンス	<予習>9回~14回までの授業内容のポイントをまとめること <復習>各自、グループワークの振り返りをする			4
16回									
計									60
成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスカッションについてコメントをする。</li> <li>・9回~15回では、毎回「振り返り用紙」の提出を求める。「振り返り用紙」の記載内容については、全体の概要をフィードバックし、質問の記載があれば回答する。</li> <li>・講義内容のポイントの理解を深めるため、レポート提出を求める。</li> <li>・学習態度については、ディスカッションやグループワークにおける積極的な発言を評価する。</li> <li>・その他については、授業での発表内容を評価する。また、9回~15回においては、「振り返り用紙」への記入内容も評価の対象とする。</li> </ul>				
	試験								
	レポート	40%							
	学習態度	30%							
	その他	30%							
計		100%							
テキスト	プリント資料を配布する								
テキスト以外の参考書(番号は、推薦順)(図書館備付)	1	Psychological First Aid(PFA) アメリカ国立PTSDセンター 2009							
	2	3.11と心の災害-福島にみるストレス症候群 蟻塚亮二 須藤康弘 大月書店 2016							
	3	四訂 精神保健福祉法詳解 精神保健福祉研究会(監修) 中央法規 2016							
	4	心の健康教育(コミュニティ心理学シリーズ1) 久田満 金子書房 2021							
	5	心の健康教育ハンドブック-こころもからだも健康な生活を送るために-坂野雄二・百々尚美・本谷亮 金剛出版 2021							
	6	実践!健康心理学-シナリオで学ぶ健康増進と疾病予防- 日本健康心理学会(編) 北大路書房 2022							
	7	学校、職場、地域におけるストレスマネジメント実践マニュアル 坂野雄二(監修) 嶋田洋徳・鈴木伸一(編著) 北大路書房 2004							
	8	今日のメンタルヘルス[三訂版]:健康・医療心理学の実践的展開(放送大学教材) 石丸昌彦(著) 放送大学教育振興会 2019							
	9	災害に備える心理教育-今日からはじめる心の減災-窪田由紀・松本真理子・森田美弥子・名古屋大学こころの減災研究会 ミネルヴァ書房 2016							
	10								
履修上の注意事項や学習上の助言など									

研究科・学年		臨床心理学研究科 1年					
講義番号	301	教科名 特定課題研究 I				授業形態	演習
単位数	2	必・選	必修	開講時期	通年	担当者	伊藤真理子・碓井真史・本間恵美子・浅田剛正・宮澤淳滋・引土達雄・小林智
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	冊子の最後にある対照表を参照						
講義の概要 (教育目標を含む)	修士課程のレベルにふさわしく、かつ高度専門職業人として適切な臨床心理学に関する研究課題を設定し、研究計画を立てる。 担当教員によるゼミ形式で進められる。修士課程2年次の修士論文執筆への準備を行う。						
学生の学習 (行動)目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文を作成するにあたって必要な文献の内容を理解し、説明できる。</li> <li>・修士論文を作成するために必要な研究方法を理解し、説明できる。</li> <li>・修士論文作成についてディスカッションを通して検討できる。</li> <li>・修士論文作成に必要な研究倫理を理解し、自らの研究計画に適用できる。</li> </ul>						
授業計画(シラバス)							
回	内 容		キーワード		準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	研究テーマの構想と研究計画書の作成		研究テーマ		教員からの助言をもとに研究テーマについて検討する		4
2回	"		"		"		4
3回	研究計画の検討		研究テーマ、研究計画、研究手法		研究テーマ、研究法の検討。必要に応じて資料収集。		4
4回	"		"		"		4
5回	"		"		"		4
6回	"		"		"		4
7回	"		"		"		4
8回	"		"		"		4
9回	"		"		"		4
10回	"		"		"		4
11回	"		"		"		4
12回	"		"		"		4
13回	"		"		"		4
14回	"		"		"		4
15回	修士論文構想発表会に参加し発表・質疑応答から研究計画をブラッシュアップさせる。		研究構想発表、討論		研究構想発表の準備		4
16回	研究計画の検討		研究テーマ、研究計画、研究手法		研究テーマ、研究法の検討。必要に応じて資料収集。		4
17回	"		"		"		4
18回	"		"		"		4
19回	"		"		"		4
20回	"		"		"		4
21回	"		"		"		4
22回	"		"		"		4
23回	"		"		"		4
24回	"		"		"		4
25回	"		"		"		4
26回	"		"		"		4
27回	"		"		"		4
28回	"		"		"		4
29回	"		"		"		4
30回	修士論文中間発表会に参加する。発表・質疑応答により研究計画をブラッシュアップさせる。		研究発表、討論		研究中間発表の準備		4
計							120

成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	構想発表についてのフィードバックは、発表時の質疑応答とゼミにおいて行なう。ゼミ形式で研究計画の検討を行う中で適宜学習
	試験			
	レポート			
	学習態度	50%	備考	学習態度はゼミへの準備状況とディスカッションへの参加状況により評価を行なう。その他は、修士論文の進め方と内容、文献の選び方などについての評価を行なう。
	その他	50%		
	計	100%		
テキスト	特に指定はないが、指導教員によって適宜紹介する。			
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	「初心者のための臨床心理学研究実践マニュアル」津川律子・遠藤裕乃著 金剛出版		
	2	「臨床心理学研究法」全8巻 下山晴彦編 新曜社		
	3	「臨床心理学研究法」岩壁茂・杉浦義典編 東京大学出版会		
	4	「はじめて学ぶ臨床心理学の質的研究:方法とプロセス」岩壁茂著 岩崎学術出版社		
	5	「臨床心理学研究の技法」下山晴彦著 福村出版		
	6	「社会調査の考え方」(上・下)佐藤郁哉著 東京大学出版会		
	7	「心理学論文の書き方(改訂新版)」松井豊著 河出書房新社		
	8	「人間科学のための混合研究法」J. W. クレスウェル・V. L. ブラノクラーク著 北大路書房		
	9	「改訂エンサイクロペディア心理学研究方法論」W. J. レイ著 北大路書房		
	10	「心理学研究法入門」南風原朝和・市川伸一・下山晴彦編 東京大学出版会		
履修上の注意事項や 学習上の助言など				



2023 年度入学生

教育課程表

講義概要（2 年次開講科目）



教育課程表（令和5年度〔2023〕入学生適用）

授 業 科 目	講義 番号	授業 年次	単 位			1 年		2 年		担当教員	
			必修	選択 必修	選択	前期	後期	前期	後期		
臨床心理学特論Ⅰ	101	1	2			2				伊藤真理子	
臨床心理学特論Ⅱ	102	1	2				2			本間恵美子	
臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	103	1	2			2				中村協子	
臨床心理面接特論Ⅱ	104	1	2				2			浅田剛正	
臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	105	1	2			2				佐藤亨・小林大介	
臨床心理査定演習Ⅱ	106	1	2				2			中村協子	
臨床心理基礎実習Ⅰ	107	1	2			2				伊藤真理子・浅田剛正	
臨床心理基礎実習Ⅱ	108	1	2				2			中村協子・小林智	
臨床心理実習Ⅰ	109	2	1					1		佐藤亨・本間恵美子・小林大介・☆布施直美	
臨床心理実習Ⅱ	110	2	1						1	佐藤亨・本間恵美子・小林大介・☆布施直美	
臨床心理演習Ⅰ	201	1		4		4				浅田剛正、他(計7名) ※1	
臨床心理演習Ⅱ	202	2		4				4		伊藤真理子、他(計11名) ※2	
心理実践実習Ⅰ	203	1		4		4				中村協子、他(計12名) ※3	
心理実践実習Ⅱ	204	2		6				6		本間恵美子、他(計12名) ※4	1コマに外部講師招聘(病院CP)
臨床心理学研究法特論	205	1		2		2				碓井真史・浅田剛正	
心理学研究法演習Ⅰ	206	1		2		2				○新國佳祐	
心理学研究法演習Ⅱ	215	2		2		2				本間恵美子	
臨床心理倫理特論	207	1		2			2			佐藤亨・中村協子	佐藤(8)、中村(6) 1コマに外部講師招聘(精神障害者の人権;野口)
人格心理学特論	208	2		2				2		浅田剛正	
精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	209	1		2		2				○関谷昭吉・☆村松公美子	M1夏季集中
障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	210	1		2				2		小林大介	前期隔年開講 2024年度開講
学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)	211	2		2				2		伊藤真理子	1コマに外部講師(高校スクールカウンセラー)招聘予定
非行・犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	212	2		2				2		佐藤亨・碓井真史・小林大介	1コマに外部講師(県警被害者支援室カウンセラー)招聘予定
産業保健心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	213	1		2			2			碓井真史・小林智・小林大介・★齋藤智・★宮崎隆徳	
家族・地域支援心理学特論(家族・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	214	2		2				2		小林智	2021年度開講時より臨床地域支援特論から科目名称変更
メンタルヘルスト論(心の健康教育に関する理論と実践)	216	1		2		2				○齋藤恵美・☆榎谷晶子	
精神分析学特論	217	1・2		2				2		☆大森智恵	前期隔年開講 2024年度集中(夏季)
認知行動療法特論	218	1・2		2			2			小林智・○齋藤恵美	後期隔年開講 2023年度開講
医療心理学特論	219	1		2			2			☆横山知行	M1後期集中(冬季)
コミュニティ・アプローチ特論	220	2		2				2		未定	休講
特定課題研究Ⅰ	301	1	2			2				本間、碓井、佐藤、伊藤、浅田、小林智	
特定課題研究Ⅱ	302	2	2					2		本間、碓井、佐藤、伊藤、浅田、小林智	

○福祉心理学部専任教員

●看護学部教員

★短大教員

☆学外非常勤講師

※1 臨床心理演習Ⅰ担当教員:浅田・中村・本間・伊藤・○真壁

※2 臨床心理演習Ⅱ担当教員:伊藤・中村・本間・佐藤・浅田・小林智・小林大・○真壁・○齋藤・☆布施

※3 心理実践実習Ⅰ担当教員:中村・本間・佐藤・伊藤・浅田・小林智・小林大・○真壁・○齋藤・☆布施

※4 心理実践実習Ⅱ担当教員:本間・中村・佐藤・伊藤・浅田・小林智・小林大・○真壁・○齋藤・☆布施

研究科・学年		臨床心理学研究科 2年				授業形態		実験・実習	
講義番号	109	教科名				臨床心理実習 I			
単位数	1	必・選	必修	開講時期	前期	担当者	伊藤真理子・本間恵美子・浅田剛正・小林智・小林大介・宮澤淳滋・引土達雄・○真壁あさみ・○佐藤修哉・☆中村協子・☆佐藤亨		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		臨床心理センターで担当する面接事例および査定事例について、指定された2名の臨床心理士によるスーパーヴィジョンを受ける。スーパーヴィジョンに際しては、事前に実習者(スーパーヴァイザー)が自身の事例記録や査定データから検討資料としてまとめ直し、考察されたクライアントの見立てや面接方針等を基に個別に検討を行う。スーパーヴィジョンを通して、臨床心理面接において基本となる「見立て」、臨床心理査定の実用方法、ケースに関わる業務およびケースマネジメントの基本的理解、臨床心理士として実践に関わる上でのスーパーヴィジョンの必要性と意義について教授する。							
学生の学習 (行動)目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理面接において基本となる「見立て」について理解し、クライアントとそのケースに応じた人間理解と方針を自ら設定することができる</li> <li>臨床心理査定における所見の作成、クライアントへのフィードバック、査定の実用について、個別のケースに応じた理解と方法を身につける</li> <li>臨床心理事例に関わる業務およびケースマネジメントの基本的理解を身につけ、臨床心理センターの一員として責任をもった連携をとることができる</li> <li>臨床心理士として実践に関わる上でのスーパーヴィジョンの必要性と意義を理解し、スーパーヴィジョンの機会を主体的に活用することができる</li> </ul>							
授業計画(シラバス)									
回	内容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量			準備学習に要する時間
1回	オリエンテーション(事前スーパーヴィジョン)				スーパーヴィジョン	スーパーヴィジョンを受けるに際して、自身の課題意識を明確しておくこと			2
2回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと			2
3回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと			2
4回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと			2
5回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと			2
6回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと			2
7回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと			2
8回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと			2
9回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと			2
10回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと			2
11回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと			2
12回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと			2
13回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと			2
14回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと			2
15回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと			2
16回									
計									30
成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	各回が終わるごとにスーパーヴィジョンレポートを作成し、次の回にスーパーヴァイザーからフィードバックを行なう。					
	試験								
	レポート	30%							
	学習態度	70%	備考		学習態度はスーパーヴィジョンのための事前準備やスーパーヴィジョンでの発言等、主体的な学習への姿勢を含む。				
	その他								
計	100%								
テキスト	なし								
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	「新訂 方法としての面接」(土居健郎) 医学書院、1992							
	2	「心理臨床実践におけるスーパーヴィジョン: スーパーヴィジョン学の構築」(菅藤章) 日本評論社、2014							
	3	「河合隼雄語録—カウンセリングの現場から」(河合隼雄) 岩波現代文庫、2018							
	4	「面接法」熊倉伸宏著 新興医学出版							
	5	「精神分析的な心理療法の実践—クライアントに出会う前に」(馬場禮子) 岩崎学術出版社、1999							
	6								
	7								
	8								
	9								
	10								
履修上の注意事項や学習上の助言など	<ul style="list-style-type: none"> <li>スーパーヴァイザーは実習生ごとに2名の臨床心理士を指定する。指導を受ける時間帯や場所は各スーパーヴァイザーとの相談の上、適宜調整すること。</li> <li>臨床心理センターでの担当ケースについては、すべてのケースについて指定されたスーパーヴァイザーにスーパーヴィジョンを受ける必要がある。</li> <li>スーパーヴィジョンの実施回数および時間数について、各月に助手まで報告すること。</li> </ul>								

研究科・学年		臨床心理学研究科 2年						
講義番号	110	教科名				臨床心理実習Ⅱ	授業形態	実験・実習
単位数	1	必・選	必修	開講時期	後期	担当者	浅田剛正・本間恵美子・伊藤真理子・小林智・小林大介・宮澤淳滋・引土達雄・○真壁あさみ・○佐藤修哉・中村協子・佐藤亨	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	冊子の最後にある対照表を参照							
講義の概要 (教育目標を含む)	臨床心理実習Ⅰに引き続き、臨床心理センターで担当する面接事例および査定事例について、指定された2名の臨床心理士によるスーパーヴィジョンを受ける。スーパーヴィジョンに際しては、事前に実習者(スーパーヴァイザー)が自身の事例記録や査定データから検討資料としてまとめ直し、考察されたクライアントの見立てや面接方針等を基に個別に検討を行う。スーパーヴィジョンを通して、臨床心理面接において基本となる「見立て」、臨床心理査定の活用方法、ケースに関わる業務およびケースマネジメントの基本的理解、臨床心理士として実践に関わる上でのスーパーヴィジョンの必要性と意義について教授する。							
学生の学習 (行動)目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理面接において基本となる「見立て」について理解を深め、クライアントとそのケースに応じた適切な人間理解と方針を定めることができる</li> <li>臨床心理事例に関わる面接、査定、ケースマネジメントおよび連携業務において、臨床心理学の諸理論とつなげながら実践することができる</li> <li>臨床心理士としての専門性と汎用性を理解し、自身が実践現場で今後取り組むべき専門職としての課題を自覚することができる</li> <li>心理臨床スーパーヴィジョンの実践的意義と多様性を理解し、関係性に基づくスーパーヴァイザーの役割と機能について理解できる</li> </ul>							
授業計画(シラバス)								
回	内容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	心理臨床スーパーヴィジョン				臨床心理面接	テキストおよび参考書を参照し、自身の課題意識を明確にしておくこと		2
2回	心理臨床スーパーヴィジョン				臨床心理査定	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
3回	心理臨床スーパーヴィジョン				面接構造	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
4回	心理臨床スーパーヴィジョン				母子並行面接	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
5回	心理臨床スーパーヴィジョン				危機介入	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
6回	心理臨床スーパーヴィジョン				連携・リファー	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
7回	心理臨床スーパーヴィジョン				ケースマネジメント	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
8回	心理臨床スーパーヴィジョン				多重関係	上記の事前学習と併せて、テキストおよび参考書を参照しておくこと		2
9回	心理臨床スーパーヴィジョン				心理療法	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
10回	心理臨床スーパーヴィジョン				身体化	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
11回	心理臨床スーパーヴィジョン				イメージ	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
12回	心理臨床スーパーヴィジョン				コンステレーション(布置)	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
13回	心理臨床スーパーヴィジョン				事例研究	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
14回	心理臨床スーパーヴィジョン				終結	面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
15回	心理臨床スーパーヴィジョン				心理臨床スーパーヴィジョン	上記の事前学習と併せて、テキストおよび参考書を参照しておくこと		2
16回								
計								30
成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	各回が終わるごとにスーパーヴィジョンレポートを作成し、次の回にスーパーヴァイザーからフィードバックを行なう。				
	試験							
	レポート	30%						
	学習態度	70%						
	その他							
		計	100%	備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習態度はスーパーヴィジョンのための事前準備やスーパーヴィジョンでの発言等、主体的な学習への姿勢を含む。</li> <li>評価基準は、実習への取り組みの態度・目的意識、臨床心理士との検討内容と理解度、臨床事例に対する理解度と対応などである。</li> </ul>			
テキスト	「心理臨床実践におけるスーパーヴィジョン：スーパーヴィジョン学の構築」(皆藤章)日本評論社、2014							
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	「新訂 方法としての面接」(土居健郎) 医学書院、1992						
	2	「精神分析的な心理療法の実践—クライアントに出会う前に」(馬場禮子) 岩崎学術出版社、1999						
	3	「河合隼雄語録—カウンセリングの現場から」(河合隼雄) 岩波現代文庫、2018						
	4	「面接法」熊倉伸宏著 新興医学出版						
	5							
	6							
	7							
	8							
	9							
	10							
履修上の注意事項や学習上の助言など	<ul style="list-style-type: none"> <li>スーパーヴァイザーは実習生ごとに2名の臨床心理士を指定する。指導を受ける時間帯や場所は各スーパーヴァイザーとの相談の上、適宜調整すること。</li> <li>臨床心理センターでの担当ケースについては、すべてのケースについて指定されたスーパーヴァイザーにスーパーヴィジョンを受ける必要がある。</li> <li>スーパーヴィジョンの実施回数および時間数について、各月で助手まで報告すること。</li> </ul>							

研究科・学年		臨床心理学研究科 2年						
講義番号	202	教科名				臨床心理演習Ⅱ	授業形態	演習
単位数	4	必・選	選必	開講時期	通年	担当者	伊藤真理子・本間恵美子・浅田剛正・小林智・小林大介・宮澤淳滋・引土達雄・○真壁あさみ・○齋藤恵美・○佐藤修哉・☆中村協子・☆佐藤亨	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照						
講義の概要 (教育目標を含む)		臨床心理センタースタッフである教員、大学院生で構成されるケースカンファレンスに参加し事例発表を行う。 担当事例の概要と面接経過について発表し、事例の見立てや経過の理解、対応の仕方についてディスカッションを行い検討する。 これを通して担当事例の背景や面接経過の臨床的理解や見立てを深めるとともに、事例報告の方法を学ぶ。 また、授業回のうち4回分は修士1年生と合同でファンタジーグループによる感受性トレーニングを行う。						
学生の学習 (行動)目標		①担当事例について事例概要及び面接経過を適切にまとめ、報告することが出来る。 ②カンファレンスで検討したい事項や事例・面接経過の見立てについて自分なりに組み立て、問題意識を持って発表を行うことが出来る。 ③カンファレンス参加者として発表された事例に関心をもち、積極的にディスカッションに参加できる。						
授業計画(シラバス)								
回	内 容		キーワード		準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間	
1-2回	ケースカンファレンス①-1		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
3-4回	ケースカンファレンス①-2		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
5-6回	ケースカンファレンス②-1		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
7-8回	ケースカンファレンス②-2		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
9-10回	ケースカンファレンス③-1		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
11-12回	ケースカンファレンス③-2		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
13-14回	ケースカンファレンス④-1		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
15-16回	ケースカンファレンス④-2		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
17-18回	ケースカンファレンス④-1		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
19-20回	ケースカンファレンス④-2		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
21-22回	ケースカンファレンス⑤-1		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
23-24回	ケースカンファレンス⑤-2		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
25-26回	ケースカンファレンス⑥-1		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
27-28回	ケースカンファレンス⑥-2		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
29-30回	ケースカンファレンス⑦-1		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
31-32回	ケースカンファレンス⑦-2		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
33-34回	ケースカンファレンス⑦-1		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
35-36回	ケースカンファレンス⑦-2		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
37-38回	ケースカンファレンス⑦-1		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
39-40回	ケースカンファレンス⑦-2		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
41-42回	ケースカンファレンス⑧-1		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
43-44回	ケースカンファレンス⑧-2		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
45-46回	ケースカンファレンス⑨-1		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
47-48回	ケースカンファレンス⑨-2		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
49-50回	ケースカンファレンス⑩-1		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
51-52回	ケースカンファレンス⑩-2		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
53-54回	ケースカンファレンス⑪-1		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
55-56回	ケースカンファレンス⑪-2		事例検討		〈予習〉資料作成		4	
57-58回	ファンタジーグループ演習		ファンタジーグループ				0	
59-60回	ファンタジーグループ演習		ファンタジーグループ		〈復習〉レポート作成		8	
計							120	

成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	ケースカンファレンスのディスカッションの中で適宜フィードバックを行う。
	試験			
	レポート			
	学習態度		備考	発表した事例への対応・事例への理解・経過の考察内容、事例資料や発表のわかりやすさ、討論の姿勢などを対象に評価を行う。
	その他	100%		
	計	100%		
テキスト	なし			
テキスト以外の 参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
履修上の注意事項や 学習上の助言など				

研究科・学年		臨床心理学研究科 2年						授業形態		実験・実習		
講義番号	204	教科名	心理実践実習Ⅱ									
単位数	6	必・選	必・選	開講時期	通年	担当者	本間恵美子・伊藤真理子・浅田剛正・小林智・小林大介・宮澤淳滋・引土達雄・岡壁あさみ・齋藤恵美・○佐藤修哉・☆中村協子・☆佐藤亨					
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照										
講義の概要(教育目標を含む)		本学大学院附属臨床センター及び外部機関における実習を通じて、心理に関する支援を必要とする者(要支援者)等とのコミュニケーションのあり方や心理面接、心理検査についての知識と技能を身に付け、要支援者等の理解とニーズの把握及び支援方針の策定、チームアプローチや多職種連携、地域連携等について学ぶことを目的とする。										
学生の学習(行動)目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理的な支援を必要とする人と適切にコミュニケーションを取ることができる。</li> <li>・心理的な支援を必要とする人との心理面接を指導を受けながら実施することができる。</li> <li>・心理的な支援を必要とする人に対する心理検査を、指導を受けながら実施することができる。</li> <li>・心理的な支援を必要とする人のニーズについて理解し、説明することができる。</li> <li>・心理的な支援を必要とする人への支援について、チームアプローチや多職種連携、地域連携の必要性について理解し、説明することができる。</li> </ul>										
授業計画(シラバス)												
回	内容		キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量						準備学習に要する時間		
1回	臨床心理センター実習:ケース担当実習		面接, プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。						4		
2回	臨床心理センター実習:ケース担当実習		面接, プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。						4		
3回	臨床心理センター実習:ケース担当実習		面接, プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。						4		
4回	臨床心理センター実習:ケース担当実習		面接, プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。						4		
5回	臨床心理センター実習:ケース担当実習		面接, プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。						4		
6回	臨床心理センター実習:ケース担当実習		面接, プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。						4		
7回	臨床心理センター実習:ケース担当実習		面接, プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。						4		
8回	臨床心理センター実習:ケース担当実習		面接, プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。						4		
9回	臨床心理センター実習:ケース担当実習		面接, プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。						4		
10回	臨床心理センター実習:ケース担当実習		面接, プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。						4		
11回	臨床心理センター実習:ケース担当実習		面接, プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。						4		
12回	臨床心理センター実習:ケース担当実習		面接, プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。						4		
13回	臨床心理センター実習:ケース担当実習		面接, プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。						4		
14回	臨床心理センター実習:ケース担当実習		面接, プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。						4		
15回	臨床心理センター実習:インテーク実習[インテーク面接陪席]		インテーク面接, ケース理解, 査定	<予習>電話受付記録等を読み、ケースについて予め考えておく。 <復習>インテーク面接の記録を作り、インテーク担当者の指導を受ける。						6		
16回	臨床心理センター実習:インテーク実習[インテーク面接陪席]		インテーク面接, ケース理解, 査定	<予習>電話受付記録等を読み、ケースについて予め考えておく。 <復習>インテーク面接の記録を作り、インテーク担当者の指導を受ける。						6		
17回	臨床心理センター実習:インテーク実習[インテーク面接陪席]		インテーク面接, ケース理解, 査定	<予習>電話受付記録等を読み、ケースについて予め考えておく。 <復習>インテーク面接の記録を作り、インテーク担当者の指導を受ける。						6		
18回	臨床心理センター実習:インテーク実習[インテーク面接陪席]		インテーク面接, ケース理解, 査定	<予習>電話受付記録等を読み、ケースについて予め考えておく。 <復習>インテーク面接の記録を作り、インテーク担当者の指導を受ける。						6		
19回	臨床心理センター実習:インテーク実習[インテーク会議参加]		インテーク会議, ケース理解	<復習>インテーク会議に提出されたケースについて、自分なりに考えをまとめる。						2		
20回	臨床心理センター実習:インテーク実習[インテーク会議参加]		インテーク会議, ケース理解	<復習>インテーク会議に提出されたケースについて、自分なりに考えをまとめる。						2		
21回	臨床心理センター実習:インテーク実習[インテーク会議参加]		インテーク会議, ケース理解	<復習>インテーク会議に提出されたケースについて、自分なりに考えをまとめる。						2		
22回	臨床心理センター実習:インテーク実習[インテーク会議参加]		インテーク会議, ケース理解	<復習>インテーク会議に提出されたケースについて、自分なりに考えをまとめる。						2		
23回	臨床心理センター実習:電話受付実習		電話受付, 要支援者	<予習>電話受付ロールプレイでの体験や指導されたことについて振り返っておく。 <復習>電話受付での体験や指導されたことについて振り返る。						4		
24回	臨床心理センター実習:電話受付実習		電話受付, 要支援者	<予習>電話受付ロールプレイでの体験や指導されたことについて振り返っておく。 <復習>電話受付での体験や指導されたことについて振り返る。						4		
25回	臨床心理センター実習:電話受付実習		電話受付, 要支援者	<予習>電話受付ロールプレイでの体験や指導されたことについて振り返っておく。 <復習>電話受付での体験や指導されたことについて振り返る。						4		
26回	臨床心理センター実習:心理査定実習		心理査定, ロールシャッハ, WAIS, WISC	<予習>実施する心理査定の実施法を復習しておく。また、ケース記録を読み、進め方について考えておく。<復習>実施した査定について報告書を作成する。						6		
27回	臨床心理センター実習:心理査定実習		心理査定, ロールシャッハ, WAIS, WISC	<予習>実施する心理査定の実施法を復習しておく。また、ケース記録を読み、進め方について考えておく。<復習>実施した査定について報告書を作成する。						6		
28回	臨床心理センター実習:心理査定実習[査定カンファレンス]		心理査定, カンファレンス	<予習>実施された心理査定について、予め学んでおく。 <復習>カンファレンスで話し合われたことについて振り返る。						2		
29回	臨床心理センター実習:心理査定実習[査定カンファレンス]		心理査定, カンファレンス	<予習>実施された心理査定について、予め学んでおく。 <復習>カンファレンスで話し合われたことについて振り返る。						2		
30回	外部機関実習:継続実習		医療機関, 福祉機関, 教育機関, 要支援者, 心理的支援, 心理査定	<予習>様々な機関での要支援者の特性や様々な職種について学び直しておく。 <復習>実習での体験を振り返り、まとめ直しておく。						4		
31回	外部機関実習:継続実習		医療機関, 福祉機関, 教育機関, 要支援者, 心理的支援, 心理査定	<予習>様々な機関での要支援者の特性や様々な職種について学び直しておく。 <復習>実習での体験を振り返り、まとめ直しておく。						4		
32回	外部機関実習:継続実習		医療機関, 福祉機関, 教育機関, 要支援者, 心理的支援, 心理査定	<予習>様々な機関での要支援者の特性や様々な職種について学び直しておく。 <復習>実習での体験を振り返り、まとめ直しておく。						4		
33回	外部機関実習:継続実習		医療機関, 福祉機関, 教育機関, 要支援者, 心理的支援, 心理査定	<予習>様々な機関での要支援者の特性や様々な職種について学び直しておく。 <復習>実習での体験を振り返り、まとめ直しておく。						4		
34回	外部機関実習:継続実習		医療機関, 福祉機関, 教育機関, 要支援者, 心理的支援, 心理査定	<予習>様々な機関での要支援者の特性や様々な職種について学び直しておく。 <復習>実習での体験を振り返り、まとめ直しておく。						4		
35回	外部機関実習:継続実習		医療機関, 福祉機関, 教育機関, 要支援者, 心理的支援, 心理査定	<予習>様々な機関での要支援者の特性や様々な職種について学び直しておく。 <復習>実習での体験を振り返り、まとめ直しておく。						4		
36回	外部機関実習:継続実習		医療機関, 福祉機関, 教育機関, 要支援者, 心理的支援, 心理査定	<予習>様々な機関での要支援者の特性や様々な職種について学び直しておく。 <復習>実習での体験を振り返り、まとめ直しておく。						4		
37回	外部機関実習:継続実習		医療機関, 福祉機関, 教育機関, 要支援者, 心理的支援, 心理査定	<予習>様々な機関での要支援者の特性や様々な職種について学び直しておく。 <復習>実習での体験を振り返り、まとめ直しておく。						4		
38回	外部機関実習:継続実習		医療機関, 福祉機関, 教育機関, 要支援者, 心理的支援, 心理査定	<予習>様々な機関での要支援者の特性や様々な職種について学び直しておく。 <復習>実習での体験を振り返り、まとめ直しておく。						4		

39回	外部機関実習:集中実習	精神科病院,生活支援施設,要支援者	<予習>実習施設の特徴や利用者の特性等について予め学んでおく。 <復習>観察した結果や自らの体験について報告書を作成する。	4
40回	外部機関実習:集中実習	精神科病院,生活支援施設,要支援者	<予習>実習施設の特徴や利用者の特性等について予め学んでおく。 <復習>観察した結果や自らの体験について報告書を作成する。	4
41回	外部機関実習:集中実習	精神科病院,生活支援施設,要支援者	<予習>実習施設の特徴や利用者の特性等について予め学んでおく。 <復習>観察した結果や自らの体験について報告書を作成する。	4
42回	外部機関実習:集中実習	精神科病院,生活支援施設,要支援者	<予習>実習施設の特徴や利用者の特性等について予め学んでおく。 <復習>観察した結果や自らの体験について報告書を作成する。	4
43回	外部機関実習:集中実習	精神科病院,生活支援施設,要支援者	<予習>実習施設の特徴や利用者の特性等について予め学んでおく。 <復習>観察した結果や自らの体験について報告書を作成する。	4
44回	外部機関実習:集中実習	精神科病院,生活支援施設,要支援者	<予習>実習施設の特徴や利用者の特性等について予め学んでおく。 <復習>観察した結果や自らの体験について報告書を作成する。	4
45回	外部機関実習:集中実習	精神科病院,生活支援施設,要支援者	<予習>実習施設の特徴や利用者の特性等について予め学んでおく。 <復習>観察した結果や自らの体験について報告書を作成する。	4
計				180
成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	・それぞれの実習の振り返りや報告会等において、実習担当教員や実習先の実習指導者がフィードバックを行う。  ・成績評価は、様々な実習における成績を総合的に勘案して評価する。 ・学習態度の評価基準は、実習への取り組みの態度・目的意識、担当教員や実習指導者との検討内容と理解度、臨床事例に対する理解度と対応などである。
	試験			
	レポート	30%	備考	
	学習態度	70%		
	その他			
	計	100%		
テキスト	・特になし。			
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	臨床心理士をめざす大学院生のための精神科実習ガイド、津川律子・橋玲子、誠信書房、2009		
	2	レクチャー心理臨床入門、一丸藤太郎・栗原和彦編、創元社、2005		
	3	カウンセリングの実際問題、河合隼雄、誠信書房、1970		
	4	心理臨床家の手引き第3版、鐘幹八郎・名島潤慈編著、誠信書房、2010		
	5	臨床心理実習論(臨床心理学全書第4巻)、下山晴彦編、誠信書房、2003		
	6	方法としての面接—臨床家のために、土居健郎、医学書院、1992		
	7	面接法、熊倉伸宏、新興医学出版社、2002		
	8			
	9			
	10			
履修上の注意事項や学習上の助言など	・心理実践実習Ⅰの単位を取得済みであること。 ・臨床心理実習Ⅰ・Ⅱと並行して受講すること。			

研究科・学年		臨床心理学研究科 2年						
講義番号	208	教科名	人格心理学特論				授業形態	講義
単位数	2	必・選	選必	開講時期	前期	担当者	浅田 剛正	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	冊子の最後にある対照表を参照							
講義の概要 (教育目標を含む)	「人格」の定義は様々あり、唯一の正解はない。しかし心理臨床実践においては、セラピストは目の前のクライアントその人の人物像を捉え、その体験的な人物イメージを適切に言語化していくことが求められる。そのため個々が自分なりの人格理論および人間理解の視点を身につけておくだけでなく、その実践的・客観的妥当性を高めていかなければならない。この講義では、複数の人格理論や発達理論に触れながら、人の主体性や「特性」をどのように捉えてゆけばよいのかについて検討してゆく。さらに、受講者自身の生身の心を使った演習を通して、心理臨床家として必須となる実践的な「見立て」の力を身につけていくことを目指したい。							
学生の学習 (行動)目標	・臨床心理学の人格論について、学術的視点と実践的視点の両面から理解することができる。 ・心理臨床における「見立て」について、心理臨床の場における実践的妥当性をもった技能として身につける。 ・学生が個々にもつ「人間観」とその力動的な理解を主体的に研鑽していくという姿勢を持つ。							
授業計画(シラバス)								
回	内 容			キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量			準備学習に要する時間
1回	「人格」と「見立て」とは？			personality	〈予習〉人格/personalityについての基礎的な知識について復習しておくこと			4
2回	人格特性の記述①			客観性と主観性	〈予習〉実際の事例に基づいて、その具体的な人格特性を記述した発表資料を事前に準備しておくこと			4
3回	人格特性の記述②			客観性と主観性	〈予習〉実際の事例に基づいて、その具体的な人格特性を記述した発表資料を事前に準備しておくこと			4
4回	人格特性の記述③			客観性と主観性	〈予習〉実際の事例に基づいて、その具体的な人格特性を記述した発表資料を事前に準備しておくこと			4
5回	心理社会的な人格論			類型論 特性論	〈予習〉社会的な人格の捉え方、測定法について復習しておくこと			4
6回	人格の測定と統計的理解			人格の測定	〈予習〉社会的な人格の捉え方、測定法について復習しておくこと			4
7回	心理発達の人格論			間主観性 分離個体化 対象関係	〈予習〉人格の発達過程について、基礎的な知識を復習しておくこと			4
8回	深層心理学的な人格論			ファンタジー 個性化 病態水準	〈予習〉深層心理学(精神分析学)における心の構造論について復習しておくこと			4
9回	人格を捉える視点について			主体と客体 関与しながらの観察	〈予習〉5～8回の講義を踏まえ、自分自身が人格を捉える上でどのような考え方に基づいているのか、整理しておくこと			4
10回	「見立て」の演習①(インシデントプロセス法)			「見立て」	〈予習・復習〉発表者は事例の事前準備を行い、各自で事例の人格理解および自身の「見立て」のプロセスについて、考え方を整理・復習すること			4
11回	「見立て」の演習②(インシデントプロセス法)			「見立て」	〈予習・復習〉発表者は事例の事前準備を行い、各自で事例の人格理解および自身の「見立て」のプロセスについて、考え方を整理・復習すること			4
12回	「見立て」の演習③(インシデントプロセス法)			「見立て」	〈予習・復習〉発表者は事例の事前準備を行い、各自で事例の人格理解および自身の「見立て」のプロセスについて、考え方を整理・復習すること			4
13回	「見立て」の演習④(インシデントプロセス法)			「見立て」	〈予習・復習〉発表者は事例の事前準備を行い、各自で事例の人格理解および自身の「見立て」のプロセスについて、考え方を整理・復習すること			4
14回	「見立て」の演習⑤(インシデントプロセス法)			「見立て」	〈予習・復習〉発表者は事例の事前準備を行い、各自で事例の人格理解および自身の「見立て」のプロセスについて、考え方を整理・復習すること			4
15回	まとめ			人格、「見立て」、間主観的普遍性	〈予習〉講義を通じて自身の考えを整理し、疑問点を明確にしておくこと			4
16回	予備日							
計								60
成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	講義内の発言、プレゼンテーションワークに対しては、その都度フィードバックを行う。  専門家として自身で人格論を構築してゆくために、学習態度に関しては積極的な発言と討論への参加を中心に評価し、中間、最終の2回のレポートを課す。 その他として、受講者は講義の中で少なくとも1回は発表の機会をもつので、その際のプレゼンテーションも評価対象とする。				
	試験							
	レポート	40%						
	学習態度	40%						
	その他	20%						
	計	100%	備考					
テキスト	「新版 人格心理学」(大山泰宏、2009) 放送大学教育振興会							
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	「精神分析的な人格理論の基礎—心理療法を始める前に」(馬場禮子) 岩崎学術出版社						
	2	「日常性の心理療法」(大山泰宏) 日本評論社						
	3	「新訂 方法としての面接」(土居健郎) 医学書院						
	4	「ユング心理学入門」(河合隼雄) 培風館						
	5	臨床心理学体系2 パーソナリティ 金子書房						
	6							
	7							
	8							
	9							
	10							
履修上の注意事項や学習上の助言など	1年次までに得た知識や、演習・実習を通じた自身の体験を振り返りながら学習することを勧める。							

研究科・学年		臨床心理学研究科 1年						
講義番号	210	教科名 障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)				授業形態	講義	
単位数	2	必・選	選必	開講時期	前期	担当者	引土 達雄	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照						
講義の概要 (教育目標を含む)		人は障害や疾病によって生活が制約されることがあります。どんな障害であっても、生活するにあたって、感じる苦難や課題は多様です。心理職としての支援を考える上で、障害という事象をもとに、どのような苦難を感じやすいかについて想像し、理解していく姿勢が求められます。本講義では、障害の特徴と当事者の心性について理解し、支援について考えていくための前提としての基本的な知識を身につけられることを目標とします。						
学生の学習 (行動)目標		① 障害児(者)の支援・教育について基礎的なことを説明できる。 ② 障害児(者)の様々な障害について基礎的なことを説明できる。						
授業計画(シラバス)								
回	内容	キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間				
1回	障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)の概要	国際生活機能分類<ICF>、障害者総合支援法、児童福祉法、精神疾患の診断分類・診断基準	<予習> 障害者・障害児心理学について書籍等で調べること。 <復習> 授業内で配布・紹介した障害者・障害児心理学について復習する。	4				
2回	障害を受け止めることとその支援	告知後の心理的变化、親による障害の受け止め、きょうだいによる障害の受け止め、社会の障害の受け止め	<予習> 障害の受容について書籍等で調べること。 <復習> 授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児への支援と教育について復習する。	4				
3回	視覚障害とその支援	視覚障害、視覚障害児の発達の特徴、視覚障害者(児)への支援	<予習> 視覚障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 <復習> 授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。	4				
4回	聴覚障害とその支援	聴覚障害、聴覚障害児の発達の特徴、聴覚障害者(児)への支援	<予習> 聴覚障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 <復習> 授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。	4				
5回	身体障害とその支援	身体障害、肢体不自由、脳性まひ、筋ジストロフィー	<予習> 身体障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 <復習> 授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。	4				
6回	小児慢性特定疾患・指定難病とその支援	小児慢性特定疾患、小児慢性特定疾患を持つ子どもの生活、指定難病	<予習> 小児慢性特定疾患・指定難病のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 <復習> 授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。	4				
7回	高次脳機能障害とその支援	高次脳機能障害、失語・失行・失認、日常生活動作<ADL>	<予習> 高次脳機能障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 <復習> 授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。	4				
8回	知的障害とその支援	知的障害、知的障害者福祉法、療育手帳制度	<予習> 知的障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 <復習> 授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。	4				
9回	発達障害、発達障害者支援法、自閉症スペクトラム障害<ASD>とその支援①	発達障害、発達障害者支援法、自閉症スペクトラム障害<ASD>	<予習> 発達障害・自閉症スペクトラム障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 <復習> 授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。	4				
10回	自閉症スペクトラム障害とその支援<ASD>②	発達障害、発達障害者支援法、自閉症スペクトラム障害<ASD>	<予習> 発達障害・自閉症スペクトラム障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 <復習> 授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。	4				
11回	注意欠如多動性障害とその支援	注意欠如多動性障害<ADHD>、成人の発達障害	<予習> 注意欠如多動性障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 <復習> 授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。	4				
12回	限局性学習障害とその支援	限局性学習障害<SLD>、読字障害、書字表出障害	<予習> 限局性学習障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 <復習> 授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。	4				
13回	精神障害とその支援①	精神障害、精神保健福祉法、アセスメント、統合失調症	<予習> 精神障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 <復習> 授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。	4				
14回	精神障害とその支援②	気分障害、うつ病、双極性障害、認知行動療法	<予習> 精神障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 <復習> 授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。	4				
15回	精神障害とその支援③ まとめ	人格障害、不安障害	<予習> 精神障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 <復習> 授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。	4				
16回								
計				60				

成績評価	小テスト	0%	学習成果のフィードバック	各授業でリアクションペーパーの配布と回収を行い、次回の授業時にフィードバックが行われる。興味関心が院生間で集中している場合は、授業時間中にその分野について説明を行う。	
	試験	0%			
	レポート	60%			
	学習態度	40%	備考		※講義では、受講人数の様子を見て、いくつかのグループを作り、ディスカッションを行いその内容をまとめ発表してもらうことを予定している。学習態度は、授業への積極的参加20%、発表形式講義への参加20%から総合的に判断する。 ※レポートは、期間中2回課す。レポート①:7回目終了時点で課す。テーマは、第1回～第7回までに扱った内容(それぞれの障害の当事者が感じやすいと想定される苦難とその支援)。レポート②:15回目終了時に課す。テーマは、8回目～第15回目までに扱った内容(それぞれの障害の当事者が感じやすいと想定される苦難とその支援)についてのレポートを課す。
	その他	0%			
	計	100%			
テキスト	不要				
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	シリーズ心理学と仕事 障害者心理学 太田信夫(監修) 北大路書房 2017			
	2	公認心理師の基礎と実践 障害者・障害児心理学 柘植雅義 他(編) 遠見書房 2020			
	3	視覚障害教育に携わる方のために 香川邦夫(編著) 慶応義塾大学出版 2016(五訂版)			
	4	聴覚障害者の心理臨床 村瀬佳代子・河崎佳子(編著) 日本評論社 2008			
	5	肢体不自由児の医療・療育・教育 篠田達明(監修) 金芳堂 2015(第3版)			
	6	「こころ」の本質とは何か 滝川一廣 筑摩書房 2009			
	7	高次脳機能障害の理解と診察 平山和美(編著) 中外医学社 2017			
	8	発達障害児者支援とアセスメントのガイドライン 辻井正次(監修) 金子書房 2014			
	9	特別支援教育の基礎・基本2020 国立特別支援教育総合研究所 ジアース教育新社 2020			
	10				
履修上の注意事項や 学習上の助言など					

研究科・学年		臨床心理学研究科 2年					
講義番号	211	教科名 学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)				授業形態	講義
単位数	2	必・選	選必	開講時期	後期	担当者	小林 大介
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	冊子の最後にある対照表を参照						
講義の概要(教育目標を含む)	教育領域での臨床心理職の業務としてスクールカウンセリング、教育相談などが挙げられる。本講義ではその中でもスクールカウンセリングの業務を中心に捉え、学校という共同体の特性、教育領域における臨床心理学的問題、集団と個人の関係等を学ぶ。地域援助において臨床心理職として何が求められているのか、またどのように機能していくことができるのかを講義・討論の中から考えていく。また、高等学校スクールカウンセラーとして勤務している実務家から実践紹介をして頂き、スクールカウンセラー業務の実際を学ぶ。						
学生の学習(行動)目標	①学校というコミュニティの特徴とその中で臨床心理学的アセスメントと援助のありかたについて理解する。 ②学齢期の児童生徒の心理的問題と学校という共同体についての理解を深める。 ③教師とのコンサルテーション、他職種・他機関との協働の手法について理解を深める。						
授業計画(シラバス)							
回	内容		キーワード		準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	学校とスクールカウンセラー		スクールカウンセラー制度、学習指導要領、生徒指導提要		復習:学校SCTの記入と検討		2
2回	学校アセスメント		学校アセスメント 学校文化		予習:トピックスに関する文献購読、担当者はレジュメ作成。		2
3回	不登校の理解と支援①		不登校		予習:トピックスに関する文献購読、担当者はレジュメ作成。		6
4回	不登校の理解と支援②		不登校		予習:トピックスに関する文献購読		3
5回	いじめの理解と支援①		いじめ		予習:トピックスに関する文献購読、担当者はレジュメ作成。		6
6回	いじめの理解と支援②		いじめ		予習:トピックスに関する文献購読		3
7回	特別支援教育と発達障害への支援①		特別支援教育 発達障害		予習:トピックスに関する文献購読、担当者はレジュメ作成。		6
8回	特別支援教育と発達障害への支援②		特別支援教育 発達障害		予習:トピックスに関する文献購読		3
9回	非行の理解と支援		非行		予習:トピックスに関する文献購読、担当者はレジュメ作成。		6
10回	児童虐待の理解と支援		児童虐待 児童相談所 SSW		予習:トピックスに関する文献購読、担当者はレジュメ作成。		6
11回	学校における緊急支援①		緊急支援 危機介入		予習:トピックスに関する文献購読、担当者はレジュメ作成。		3
12回	学校における緊急支援②		緊急支援 危機介入		予習:トピックスに関する文献購読		2
13回	生徒集団への支援		集団と個人 予防的援助 自殺 SOS		予習:トピックスに関する文献購読		3
14回	教育と臨床心理士(外部講師)		教師、教育相談 連携		予習:問題意識の抽出 復習:講義後小レポート作成		3
15回	教職員集団・保護者への支援とコンサルテーション		教職員 学校コミュニティ		予習:トピックスに関する文献購読		6
16回							
計							60
成績評価	小テスト	0%	学習成果のフィードバック	受講生各自の発表について発表後に補足とフィードバックを行う。提出されたリアクションペーパーについて授業中にフィードバック			
	試験	0%					
	レポート	50%					
	学習態度	20%	備考	学習態度:各回のテーマに沿って受講生自身がトピックスを担当し発表を行う。発表内容や討議への参加状況を評価する。その他:授業中の発言や参加態度、レジュメ・発表の内容を総合的に評価する。			
	その他	30%					
計	100%						
テキスト	講義にて適宜指示をする。						
テキスト以外の参考書(図書館備付)	1	村山正治・滝口俊子(編) 現場で役立つスクールカウンセリングの実例 創元社 2012					
	2	村山正治・滝口俊子(編) 事例に学ぶスクールカウンセリングの実例 創元社 2007					
	3	子どもの心と学校臨床(雑誌) 遠見書房					
	4	生徒指導提要 文部科学省					
	5	文部科学省HP <a href="http://www.mext.go.jp/">http://www.mext.go.jp/</a>					
	6	倉光修編 臨床心理学全書第12巻 学校臨床心理学 誠信書房 2004					
	7	村瀬嘉代子監修 学校が求めるスクールカウンセラー アセスメントとコンサルテーションを中心に 遠見書房 2013					
	8	かしまえりこ・神田橋條治 スクールカウンセリング モデル100例読み取る。支える。現場の工夫 創元社 2006					
	9	石隈利紀・家近早苗 スクールカウンセリングのこれから 創元社 2021					
	10						
履修上の注意事項や学習上の助言など							

研究科・学年		臨床心理学研究科 2年					
講義番号	212	教科名 非行・犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)				授業形態	講義
単位数	2	必・選	選必	開講時期	後期	担当者	☆佐藤 亨・小林 大介
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	冊子の最後にある対照表を参照						
講義の概要(教育目標を含む)	非行・犯罪を行う人や犯罪被害者の心理を理解・支援するために、関連する法制度や理論的な枠組みについて学習する。その上で、非行少年や犯罪加害者の心理や支援、犯罪被害者の心理や支援について、実践的な知見に基づいて学ぶ。						
学生の学習(行動)目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犯罪や非行に関する法的な枠組みや理論について、説明できる。</li> <li>・非行や犯罪を行った人の心理について、事実に基づいて説明することができる。</li> <li>・犯罪被害者に係る法制度や心理、支援の際の留意点について説明できる。</li> <li>・非行・犯罪を行った人や犯罪被害者をどう支援していくかについて、自分なりの考えを述べる事ができる。</li> </ul>						
授業計画(シラバス)							
回	内 容		キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量			準備学習に要する時間
1回	司法・犯罪に関する法制度		警察、裁判所、矯正、保護観察	予習:入手で受講した司法・犯罪心理学について復習しておく。又は参考書9~13のうちどれかに目を通しておく。復習:学んだことを自分なりにノートにまとめる。			4
2回	非行・犯罪を理解するための視点～社会的な理論～		緊張理論、絆理論、ラベリング理論	予習:入手で受講した司法・犯罪心理学について復習しておく。又は参考書9~13のうちどれかに目を通しておく。復習:学んだことを自分なりにノートにまとめる。			4
3回	非行・犯罪を理解するための視点～生物学的・心理学的な理論～		心理学的見方、生物学的見方	予習:入手で受講した司法・犯罪心理学について復習しておく。又は参考書9~13のうちどれかに目を通しておく。復習:学んだことを自分なりにノートにまとめる。			4
4回	非行の心理～虐待と非行～		虐待、自己イメージ、依存欲求、対人信頼感	予習:虐待についてこれまでに学んだことを復習しておく。復習:学んだことをノート等にまとめる。			4
5回	非行の心理～発達障害と非行～		発達障害、二次障害	予習:発達障害についてこれまでに学んだ事を復習しておく。復習:学んだことをノート等にまとめる。			4
6回	様々な非行・犯罪の心理		窃盗、傷害、薬物事犯、女子非行	予習:窃盗、傷害、薬物事犯、女子少年の非行について自分なりに調べてまとめておく。復習:学んだことをノート等にまとめる。			4
7回	再犯防止のための考え方		リラプス・プレベンション、グッドライブス・モデル	予習:キーワードにあげられた考え方について自分なりに調べてまとめておく。復習:学んだことをノート等にまとめる。			4
8回	再犯防止のための実際の支援		矯正教育、改善指導、保護観察	予習:少年院、刑務所、保護観察所で行われている支援について自分なりに調べてまとめておく。復習:学んだことをノート等にまとめる。			4
9回	少年鑑別所におけるアセスメントの進め方		面接、心理検査、行動観察	予習:少年鑑別所について自分なりに調べてまとめておく。復習:学んだことをノート等にまとめる。			4
10回	事例検討1		見立て、支援	予習:第1回～第8回の内容を復習しておく。復習:授業で学んだ事例について、再度自分なりの考えをレポートにまとめる。			4
11回	事例検討2		見立て、支援	予習:第1回～第8回の内容を復習しておく。復習:授業で学んだ事例について、再度自分なりの考えをレポートにまとめる。			4
12回	事例検討3		見立て、支援	予習:第1回～第8回の内容を復習しておく。復習:授業で学んだ事例について、再度自分なりの考えをレポートにまとめる。			4
13回	犯罪被害者の心理と支援		犯罪被害者、被害者支援	予習:犯罪被害者の心理や被害者支援の枠組みについて、自分なりに調べてノート等にまとめておく。復習:学んだことをノート等にまとめる。			4
14回	親密な関係で生じる暴力の理解と支援		DV、ストーキング、見立て、支援	予習:親密な関係で生じる暴力について、自分なりの考えをノート等にまとめておく。復習:学んだことをノート等にまとめる。			4
15回	非行少年とどう関わるか		見立て、行動観察	予習:非行少年と関わる時に気を付けるべき点について自分なりに考えて、ノートにまとめておく。復習:学んだことについて、ノート等にまとめる。			4
16回							
計							60
成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回コメント票を提出させる等して、質問や学びが不十分なところについては、次の授業で補足する。レポートについては、気になった点などについて、授業の中などでフィードバックを行う。</li> <li>・授業内容の理解を深めるため、レポート提出を求める。</li> <li>・学習態度は、授業中の討論及び演習に取り組む態度をもとに評価する。</li> </ul>			
	試験						
	レポート	80%					
	学習態度	20%					
	その他		備考				
計		100%					
テキスト	なし。適宜プリントを配布する。						
テキスト以外の参考書(番号は、推薦順)(図書館備付)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 非行少年の加害と被害、藤岡淳子、誠信書房、2001</li> <li>2 非行少年への対応と援助、生島浩、金剛出版、1993</li> <li>3 犯罪心理学事典、日本犯罪心理学会編、丸善出版、2016</li> <li>4 犯罪白書、法務総合研究所編(法務省のHPから閲覧可能)</li> <li>5 犯罪心理学—行動科学のアプローチ、バートル・カート・R、北大路書房 2006</li> <li>6 非行カウンセリング入門、藤掛明、金剛出版、2002</li> <li>7 司法心理臨床実践(心の専門家養成講座⑩)、河野荘子編、ナカニシヤ出版、2023</li> <li>8 入門 犯罪心理学、原田 隆之、筑摩書房、2015</li> <li>9 司法・犯罪心理学、藤岡淳子編、有斐閣ブックス、2020</li> <li>10 司法・犯罪心理学(公認心理師の基礎と実践19)、岡本吉生編、遠見書房、2019</li> <li>11 公認心理師分野別テキスト4 司法犯罪分野-理論と支援の展開-、生島浩編著、創元社、2019</li> <li>12 司法・犯罪心理学(シリーズ心理学と仕事16)、桐生正幸編集、北大路書房、2019</li> <li>13 司法犯罪心理学(Progress&amp;Application14)、越智啓太著、サイエンス社、2020</li> </ol>						
履修上の注意事項や学習上の助言など							

研究科・学年	臨床心理学研究科 2年							
講義番号	214	教科名	家族・地域支援心理特論(家族・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)				授業形態	講義
単位数	2	必・選	選必	開講時期	前期	担当者	小林 智	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	冊子の最後にある対照表を参照							
講義の概要(教育目標を含む)	家族や地域を含んだ対人関係システムの臨床心理学的支援に関する基本的な概念と対人関係システムに関する理論への理解を基礎として、実際に行なわれているさまざまな地域支援における臨床心理学的アプローチについて学修する。							
学生の学習(行動)目標	1. 臨床的地域支援に関する基本的および実践的考え方について理解できる。 2. 家族・地域・その他組織における対人関係の包括的に理解に向けて、システム論に基づいたアセスメントと支援方法の習得を目指す。 3. 上記2点の学修成果を模擬事例における支援計画の立案において柔軟に活用する。							
授業計画(シラバス)								
回	内 容			キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間	
1回	社会システムへの支援における基本的視点			生態学的システム論、家族論、地域論	＜復習＞テキストと資料に基づき、基本的な概念を中心にノートを整理する		4	
2回	対人関係システム論概説			システム論、対人関係システム	＜復習＞テキストと資料に基づき、基本的な概念を中心にノートを整理する		4	
3回	人間コミュニケーションの語用論			人間コミュニケーションの試案的公理	＜復習＞テキストと資料に基づきノートを整理する		4	
4回	MRIモデルと第一次サイバネティクス			悪循環、偽解決行動、受援システム	＜復習＞テキストと資料に基づきノートを整理する		4	
5回	BFTCモデルと第二次サイバネティクス			ソリューションフォーカス、支援システム	＜復習＞テキストと資料に基づきノートを整理する		4	
6回	統合モデルの展開			二重記述モデル、システムズアプローチ	＜復習＞テキストと資料に基づきノートを整理する		4	
7回	ナラティブアプローチの展開と社会構成主義			社会構成主義、ナラティブセラピー	＜復習＞テキストと資料に基づきノートを整理する		4	
8回	システム論的心理支援理論総括			1回～7回のキーワードに準ずる	＜復習＞これまでの学修内容を振り返り整理する		4	
9回	システム論的心理支援法の実践(1)			社会システムのアセスメント	＜復習＞参考書と資料に基づき、基本的な概念を中心にノートを整理する		4	
10回	システム論的心理支援法の実践(2)			介入の立案と実行	＜復習＞参考書と資料に基づき、基本的な概念を中心にノートを整理する		4	
11回	システム論的心理支援法の実践(3)			コンサルテーションを通じた地域支援	＜復習＞参考書と資料に基づき、基本的な概念を中心にノートを整理する		4	
12回	家族面接論			家族合同面接、家族並行面接	＜復習＞参考書と資料に基づき、基本的な概念を中心にノートを整理する		4	
13回	集団・組織への心理支援の応用			組織マネジメント、環境調整	＜復習＞参考書と資料に基づき、基本的な概念を中心にノートを整理する		4	
14回	地域社会への心理支援の応用			社会資源の活用、リエゾン機能	＜復習＞参考書と資料に基づき、基本的な概念を中心にノートを整理する		4	
15回	集団支援技法総括			主に8回～14回のキーワードに準ずる	＜復習＞これまでの学修内容を振り返り整理する		4	
16回								
計							60	
成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	コメントペーパーやレポートの記載内容について授業中にフィードバックする				
	試験							
	レポート	60%						
	学習態度	40%	備考	システム論に立脚した臨床心理学的支援についての調べ学習レポートを課す。各授業回のテーマについてコメントペーパーを課し、その提出状況や記載内容を学習態度の評価に用いる。				
	その他							
計	100%							
テキスト	「Interactional Mind Ⅻ(2019)」日本ブリーフセラピー協会編 北樹出版							
テキスト以外の参考書(番号は、推薦順)(図書館備付)	1	「家族療法テキストブック」日本家族研究・家族療法学会(編) 金剛出版						
	2	「心理療法の交差点」岡昌之・生田倫子・妙木和之編著 新曜社						
	3	人間コミュニケーションの語用論 ポール・ワツラヴィック(著) 尾川丈一(訳) 二瓶社						
	4	「家族療法リソースブック」日本家族研究・家族療法学会(編) 金剛出版						
	5	「心理療法の交差点2」岡昌之・生田倫子・妙木和之編著 新曜社						
	6	「心理専門職の連携・協働」鶴光代 津川律子(編) 誠信書房						
	7	「災害ケースマネジメントガイドブック」津久井 進 著 合同出版						
	8	「コミュニティ心理学ハンドブック」日本コミュニティ心理学会編 東京大学出版会						
	9							
	10							
履修上の注意事項や学習上の助言など								

研究科・学年		臨床心理学研究科 1・2年							
講義番号	217	教科名				精神分析学特論	授業形態	講義	
単位数	2	必・選	選必	開講時期	前期集中	担当者	☆大森 智恵		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		「精神分析」とはどのようなものなのか、精神分析学の歴史的な流れを概観し、人名や専門用語も含めた各理論について理解する。特に、フロイトの心理学、自我心理学、対象関係論について理解を深める。							
学生の学習 (行動)目標		精神分析の重要な概念や専門用語について簡潔に説明することができる。また、実際の事例について議論する際に、精神的な視点から理解することができる。							
授業計画(シラバス)									
回	内 容		キーワード		準備学習(予習・復習)の内容と分量			準備学習に要する時間	
1回	導入		導入		具体的な講義に入る前に、「テキスト」を読んでおくこと。			12	
2回	「精神分析」とは		精神分析の位置づけ		上記の通り			2	
3回	「精神分析という営み」とは		精神分析の「場」とプロセス		上記の通り			2	
4回	歴史と定義		催眠、自由連想、歴史		上記の通り			4	
5回	構造論		自我、エス、超自我		上記の通り			4	
6回	力動的観点: 自我の諸機能		現実機能、防衛機能、適応機能		上記の通り			4	
7回	力動的観点: 自我の諸機制		防衛機制、抑圧、否認		上記の通り			4	
8回	心の病理と退行		退行		上記の通り			4	
9回	フロイトと自我心理学の発達論		発達段階		上記の通り			4	
10回	対象関係の発達		良い対象、悪い対象		上記の通り			4	
11回	マラーの分離—個体化の発達		乳幼児期の発達		上記の通り			4	
12回	スターンの発達論		新生自己感		上記の通り			4	
13回	境界的人格構造		カーンバーグ、原始的防衛機制		上記の通り			4	
14回	事例研究1		心理療法の実践における基本的理解		グループに分かれて事例の理解を深める。その後、各グループごとに発表を行う。			2	
15回	事例研究2		心理療法の実践における基本的理解		上記の通り			2	
16回	予備日								
計								60	
成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック		コメントやディスカッションに対し、授業内で教員からコメントが与えられる。				
	試験								
	レポート	50%	備考		レポート: 講義やディスカッションを通して学んだこと、および考えたことなどを書いたレジュメ(A4 1枚)を評価する。 学習態度: ディスカッションへの態度について評価する。				
	学習態度	50%							
	その他								
計	100%								
テキスト	馬場禮子著 2016年「精神分析的人格理論の基礎 心理療法を始める前に」 岩崎学術出版社 3080円								
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1								
	2								
	3								
	4								
	5								
	6								
	7								
	8								
	9								
	10								
履修上の注意事項や学習上の助言など	積極的なコメントおよびディスカッションが求められます。								

研究科・学年		臨床心理学研究科 2年					
講義番号	302	教科名 特定課題研究Ⅱ				授業形態	演習
単位数	2	必・選	必修	開講時期	通年	担当者	伊藤真理子・碓井真史・本間恵美子・浅田剛正・宮澤淳滋・引土達雄・小林智
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連							
講義の概要 (教育目標を含む)		研究テーマを具体的に絞込み、先行研究の流れにおける自己の研究の位置づけを行なうと共に、それに沿った研究計画を策定する。 データの収集・分析などを行い、修士論文を執筆する。					
学生の学習 (行動)目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文のテーマを臨床心理学的意義を考慮しながら設定できる。</li> <li>・修士論文を作成するにあたって適切な文献を選択でき、その内容を理解できる。</li> <li>・修士論文を作成するために適切な研究方法を選択し、それを理解、実施できる。</li> <li>・修士論文作成についてディスカッションを通して検討できる。</li> <li>・修士論文作成に必要な倫理的配慮を理解し、実施できる。</li> <li>・収集したデータについて適切な方法を用いて分析し、その結果をわかりやすく、臨床心理学的な意義を含めて示することができる。</li> </ul>					
授業計画(シラバス)							
回	内 容		キーワード		準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	研究計画に合わせて資料の収集や論文作成をゼミ形式で行なう。		研究計画、資料収集、討論		研究計画、研究実施の準備、資料収集		4
2回	"		"		"		4
3回	"		"		"		4
4回	"		"		"		4
5回	"		"		"		4
6回	"		"		"		4
7回	"		"		"		4
8回	"		"		"		4
9回	"		"		"		4
10回	"		"		"		4
11回	"		"		"		4
12回	"		"		"		4
13回	"		"		"		4
14回	"		"		"		4
15回	修士論文中間発表会を開催し、発表・質疑応答により研究計画を精緻化する。		研究計画の精緻化、討論		発表資料の準備		4
16回	研究計画に合わせて資料の収集と分析、論文作成をゼミ形式で行なう。		研究計画の実施、データ分析、討論		研究の実施、データ分析と論文作成のための準備		4
17回	"		"		"		4
18回	"		"		"		4
19回	"		"		"		4
20回	"		"		"		4
21回	"		"		"		4
22回	"		"		"		4
23回	"		"		"		4
24回	論文執筆と内容の検討		論文作成		データのまとめと論文作成		4
25回	"		"		"		4
26回	"		"		"		4
27回	"		"		"		4
28回	"		"		"		4
29回	"		"		"		4
30回	修士論文発表会を開催し、口頭試問を行なう。		修士論文、討論		論文発表準備		4
31回							
計							120

成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	研究発表についてのフィードバックは研究発表会およびゼミで行う。
	試験			
	レポート			
	学習態度	30%	備考	学習態度はゼミへの準備、ディスカッションへの参加状況による。 その他は修士論文作成状況、内容による。
	その他	70%		
	計	100%		
テキスト	特に指定はないが、指導教員によって適宜紹介する。			
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	「臨床心理学研究法」全8巻 下山晴彦編 新曜社		
	2	「臨床心理学研究の技法」W. J. レイ著 北大路書房		
	3	「事例に学ぶ 心理学者のための研究倫理」安藤寿康・安藤典明編 ナカニシヤ出版		
	4	「APA論文作成マニュアル」アメリカ心理学会著 医学書院		
	5	「社会調査の考え方」(上・下)佐藤郁哉著 東京大学出版会		
	6	「心理学論文の書き方」松井豊著 河出書房新社		
	7	「臨床心理学研究法」岩壁茂・杉浦義典編 東京大学出版会		
	8	「はじめて学ぶ臨床心理学の質的研究:方法とプロセス」岩壁茂著 岩崎学術出版社		
	9	「人間科学のための混合研究法」J. W. クレスウェル・V. L. プラノクラーク著 北大路書房		
	10	「心理学研究法入門」南風原朝和・市川伸一・下山晴彦編 東京大学出版会		
履修上の注意事項や 学習上の助言など				

## 大学院臨床心理学研究科教員名簿

### 専任教員

職名	氏名
研究科長・教授	伊藤真理子
教授	碓井真史
教授	本間恵美子
教授	浅田剛正
准教授	引土達雄
准教授	宮澤淳滋
准教授	小林 智
助教	小林大介
助手	本間成恵

### 非常勤教員

氏名
大 森 智 恵
櫛 谷 晶 子
● 齋 藤 智
○ 齋 藤 恵 美
佐 藤 亨
○ 関 谷 昭 吉
中 村 協 子
○ 新 國 佳 祐
○ 真 壁 あさみ
● 宮 崎 隆 穂
○ 村 松 公美子
横 山 知 行

※50音順 2024年4月現在

○新潟青陵大学学部専任教員、他研究科専任教員

●新潟青陵大学短期大学部専任教員

【大学院】2024年度授業暦

日程	主な予定	実習・その他の予定
4月2日(火)	入学式／オリエンテーション ～9日(火)	
4月10日(水)	前期授業開始	
4月25日(木)	午後 M2 修士論文中間発表会	4月23日(火) 創立記念日
7月31日(水)	前期定期試験期間 ～8月6日(火)	5月～ M2 継続実習 ～7月
8月1日(木)	M1 構想発表会	6月29日(土) 大学院学内特別選考／
8月11日(木)	夏期休業 ～9月30日(月)	8月～9月 M1 見学実習
8月～9月※	集中講義「精神分析学特論」9月9日～12日 集中講義「精神医学特論」	9月7日(土) 大学院一次募集入試
9月19日(木)	3限：後期オリエンテーション	
10月1日(火)	後期授業開始	
10月10日(木)	防災訓練	10月～ M2 集中実習 ～12月
11月14日(木)	M2 修士論文題目提出期日 16時まで	11月2日(土) 新潟青陵学会
12月11日(水)	M2 修士論文提出期日 16時まで	11月30日(土) 大学院二次募集入試
12月20日(金)	午前：M1 修士論文中間発表会	
12月28日(土)	冬期休業 ～1月5日(日)	
1月13日(月)	M2 修了試験	
1月31日(金)	後期定期試験期間 ～2月6日(木)	
3月3日(月)	修了者名発表	
3月18日(火)	修了式	
3月20日(木)	春期休業 ～31日(木)	

※の予定については、後日詳細な日時を決定・連絡

修了判定スケジュール

12月11日	修士論文提出	題目提出 11月14日
12月21日	修士論文発表会	
1月13日	修了試験	
1月23日	研究科委員会	
2月	成績入力期限	
	学務課へ審査報告書提出	
2月13日	研究科委員会：修了判定	

## 修了及び資格受験資格要件

授 業 科 目	講義 番号	授業 年次	単 位			修了 要件	臨床 心理 士	公認 心理 師
			必修	選択 必修	選択			
臨床心理学特論Ⅰ	101	1	2			◎	◎	
臨床心理学特論Ⅱ	102	1	2			◎	◎	
臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	103	1	2			◎	◎	◎
臨床心理面接特論Ⅱ	104	1	2			◎	◎	
臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	105	1	2			◎	◎	◎
臨床心理査定演習Ⅱ	106	1	2			◎	◎	
臨床心理基礎実習Ⅰ	107	1	2			◎	◎	
臨床心理基礎実習Ⅱ	108	1	2			◎	◎	
臨床心理実習Ⅰ	109	2	1			◎	◎	
臨床心理実習Ⅱ	110	2	1			◎	◎	
臨床心理演習Ⅰ	201	1		4		○	E	
臨床心理演習Ⅱ	202	2		4		○	E	
心理実践実習Ⅰ	203	1		4		○		◎
心理実践実習Ⅱ	204	2		6		○		◎
臨床心理学研究法特論	205	1		2		○	A	
心理学研究法演習	206	1		2		○	A	
臨床心理倫理特論	207	1		2		○	A	
人格心理学特論	208	2		2		○	B	
精神保健医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	209	1		2		○	D	◎
障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	210	1・2		2		○	D	◎
学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)	211	2		2		○	B	◎
非行・犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	212	2		2		○	C	◎
産業保健心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	213	1		2		○	C	◎
家族・地域支援心理学特論(家族・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	214	1		2		○	C	◎
メンタルヘルス特論(心の健康教育に関する理論と実践)	216	1		2		○	D	◎
精神分析学特論	217	1・2		2		○	E	
認知行動療法特論	218	1		2		○	D	
コミュニティ・アプローチ特論	219	2		2		○	C	
特定課題研究Ⅰ	301	1	2			◎		
特定課題研究Ⅱ	302	2	2			◎		

◎は必修 ○は選択必修 アルファベットは臨床心理士受験資格のための各群

◇修了要件 必修科目全て22単位 選択必修科目の中から8単位以上 合計30単位以上

☆臨床心理士受験資格 必修科目全て A～Eの各群からそれぞれ2単位以上

★公認心理師受験資格(大学院段階) ◎の付いた科目全て

※公認心理師については大学で必要な科目の単位取得の要件を満たしている必要あり

## 臨床心理学研究科ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表(2024(R6)年度入学生)

### ■臨床心理学研究科

授 業 科 目	科目区分	授業年次	DP1 臨床心理学の専門家としての臨床実践力および倫理観を身に付けている。	DP2 臨床実践に基づいた臨床心理学的知識と視点、心理学及び関連領域の高度専門的知識を身に付けている。	DP3 臨床心理学の発展に寄与する研究を実践し、その内容を適切に伝える力を身に付けている。	DP4 臨床心理士及び関連領域の専門職と連携・協働し、地域の臨床心理学的問題の解決に寄与する力を身につけている。	
臨床心理学特論 I	必修科目	1		◎	○		
臨床心理学特論 II		1		◎	○		
臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)		1	◎	○		○	
臨床心理面接特論 II		1	◎	○		○	
臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践)		1	◎	○			
臨床心理査定演習 II		1	◎	○			
臨床心理基礎実習 I		1	◎	○			
臨床心理基礎実習 II		1	◎	○			
臨床心理実習 I		2	◎			◎	
臨床心理実習 II		2	◎			◎	
特定課題研究 I		1				◎	
特定課題研究 II		2				◎	
臨床心理演習 I		選択必修科目	1	◎	○		
臨床心理演習 II			2	◎	○		
心理実践実習 I	1		○	○		◎	
心理実践実習 II	2		○	○		◎	
臨床心理学研究法特論	1			○	◎		
心理学研究法演習 I	1			○	◎		
心理学研究法演習 II	1			○	◎		
臨床心理倫理特論	1		◎	○		○	
人格心理学特論	2		○	◎			
精神保健医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	1		○	◎		○	
障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	1・2		○	◎		○	
学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)	2		○	◎		○	
非行・犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2		○	◎		○	
産業保健心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	1		○	◎		○	
家族・地域支援心理学特論(家族・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2		○	○		◎	
メンタルヘルス特論(心の健康教育に関する理論と実践)	1		○	◎		○	
精神分析学特論	2		○	◎			
認知行動療法特論	1・2		○	◎			
コミュニティ・アプローチ特論	2		○	○		◎	

## 臨床心理学研究科ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表(2023(R5)年度入学生)

### ■臨床心理学研究科

授 業 科 目	科目区分	授業年次	DP1 臨床心理学の専門家としての臨床実践力および倫理観を身に付けている。	DP2 臨床実践に基づいた臨床心理学的知識と視点、心理学及び関連領域の高度専門的知識を身に付けている。	DP3 臨床心理学の発展に寄与する研究を實踐し、その内容を適切に伝える力を身に付けている。	DP4 臨床心理士及び関連領域の専門職と連携・協働し、地域の臨床心理学的問題の解決に寄与する力を身につけている。	
臨床心理学特論 I	必修科目	1		◎	○		
臨床心理学特論 II		1		◎	○		
臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)		1	◎	○		○	
臨床心理面接特論 II		1	◎	○		○	
臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践)		1	◎	○			
臨床心理査定演習 II		1	◎	○			
臨床心理基礎実習 I		1	◎	○			
臨床心理基礎実習 II		1	◎	○			
臨床心理実習 I		2	◎			◎	
臨床心理実習 II		2	◎			◎	
特定課題研究 I		1				◎	
特定課題研究 II		2				◎	
臨床心理演習 I		選択必修科目	1	◎	○		
臨床心理演習 II			2	◎	○		
心理実践実習 I	1		○	○		◎	
心理実践実習 II	2		○	○		◎	
臨床心理学研究法特論	1			○	◎		
心理学研究法演習 I	1			○	◎		
心理学研究法演習 II	1			○	◎		
臨床心理倫理特論	1		◎	○		○	
人格心理学特論	2		○	◎			
精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	1		○	◎		○	
障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	1・2		○	◎		○	
学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)	2		○	◎		○	
非行・犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2		○	◎		○	
産業保健心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	1		○	◎		○	
家族・地域支援心理学特論(家族・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2		○	○		◎	
メンタルヘルス特論(心の健康教育に関する理論と実践)	1		○	◎		○	
精神分析学特論	2		○	◎			
認知行動療法特論	1・2		○	◎			
医療心理学特論	2		○	◎		○	
コミュニティ・アプローチ特論	2		○	○		◎	